物產雜說

小笠原島
植物

乙 十

A 00
5764

東京大学総合図書館

No.57

小笠原島植物帖

明治十四年十二月津井勝猶氏ノ該島ニ在シ頃集ムル所ナルヲ蠟墨ヲ印刷シ一帖トス
于時十五年一月十三日夜ナリ

又博物局腊葉五十三品ハ同局天産課ヨリ借リ墨刷ス 名ハ其下ニ付之ニ愚考ニ案ヲ附ス
于時一月二十二日夜也

田中芳男

該島材十五品ノ解説ハ十年内国勧業博覧会解説ニ出ヅ今其品ヲ挙ケ並ヘハ本圖ヲ附ス

此外ニ小笠原島産物雑記アリ併セ見ルベシ

A00 64
東京帝國大學圖書
B 45224
男爵田中義廉男爵寄贈 先代田中芳男男旧蔵書 昭和七年
東京大学総合図書館

三号 シートマナ 雌トマナ之義
旧称ハマホウ 是海濱ホウノキ之義
ナリ 葉ノ似タルニヨリ名ク

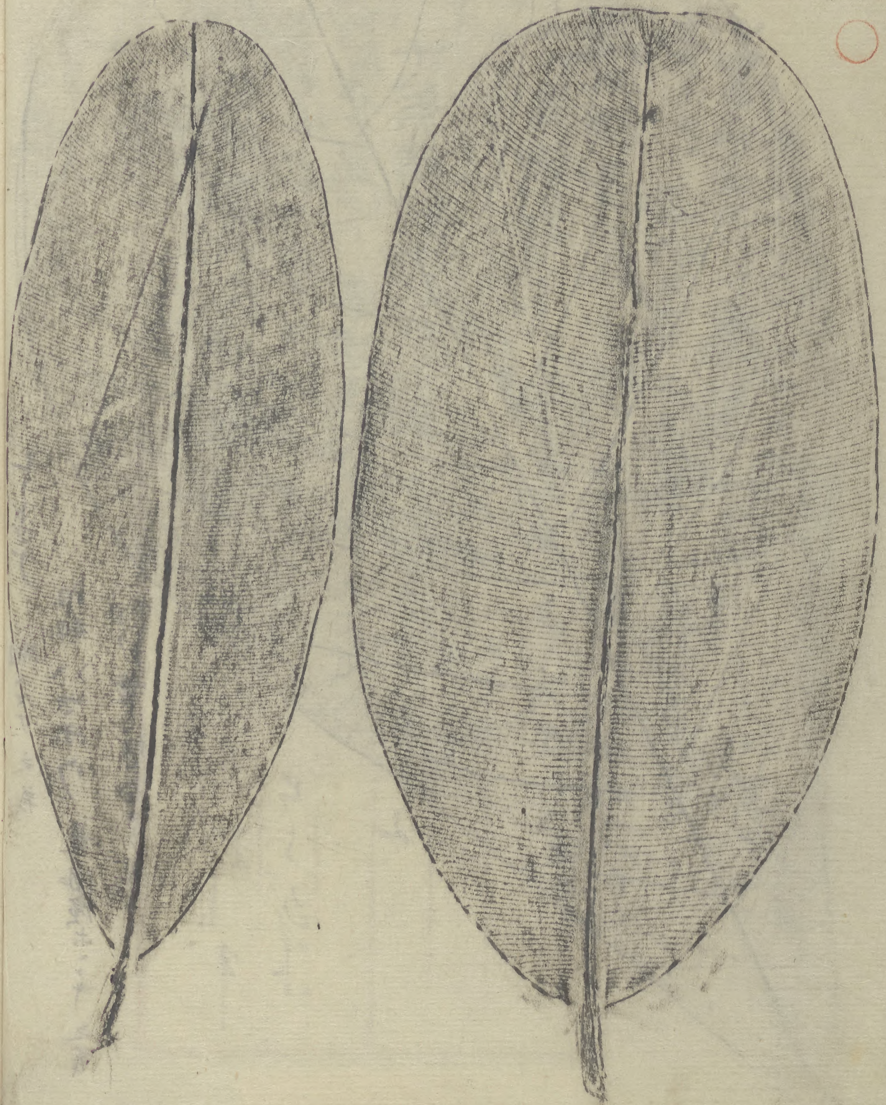
小笠原島ニ最高山ナル□□ハ通モ之
事ナキ、植物モナク又峻嶮之云フ計ナキニヨリ
登臨シタル人ハ必ス上ニハ一目大体ヲ知ルヘキニ
見且岩上ニイハヒバ生ス岩小ニシテ大木ヲ見ズシテ

十年内務省報告ノ説ハ シートマナ ヒートマナ
ニ至テ混セリ 赤色良材ハ ヤラボノ方ニテ
ナラカニシテ ホソキ、近キ樹ノ材ナリト
五年三月記 富樫吉ノ語ナリ

三十二号 ヒートマナ

卽 那剌菩（ヤラボ）

此材赤褐色ニシテ堅実義薦ナリ
説ハ第一回博覧会某解説ニ出ツ
此洋名如キ名ハ土蕃洋人ノ名ニヨテ浜島ノ方言ナリ 此ヒートト云フ義ハ雄ノ華則ニ云フ雌ト称スル樹ナリ

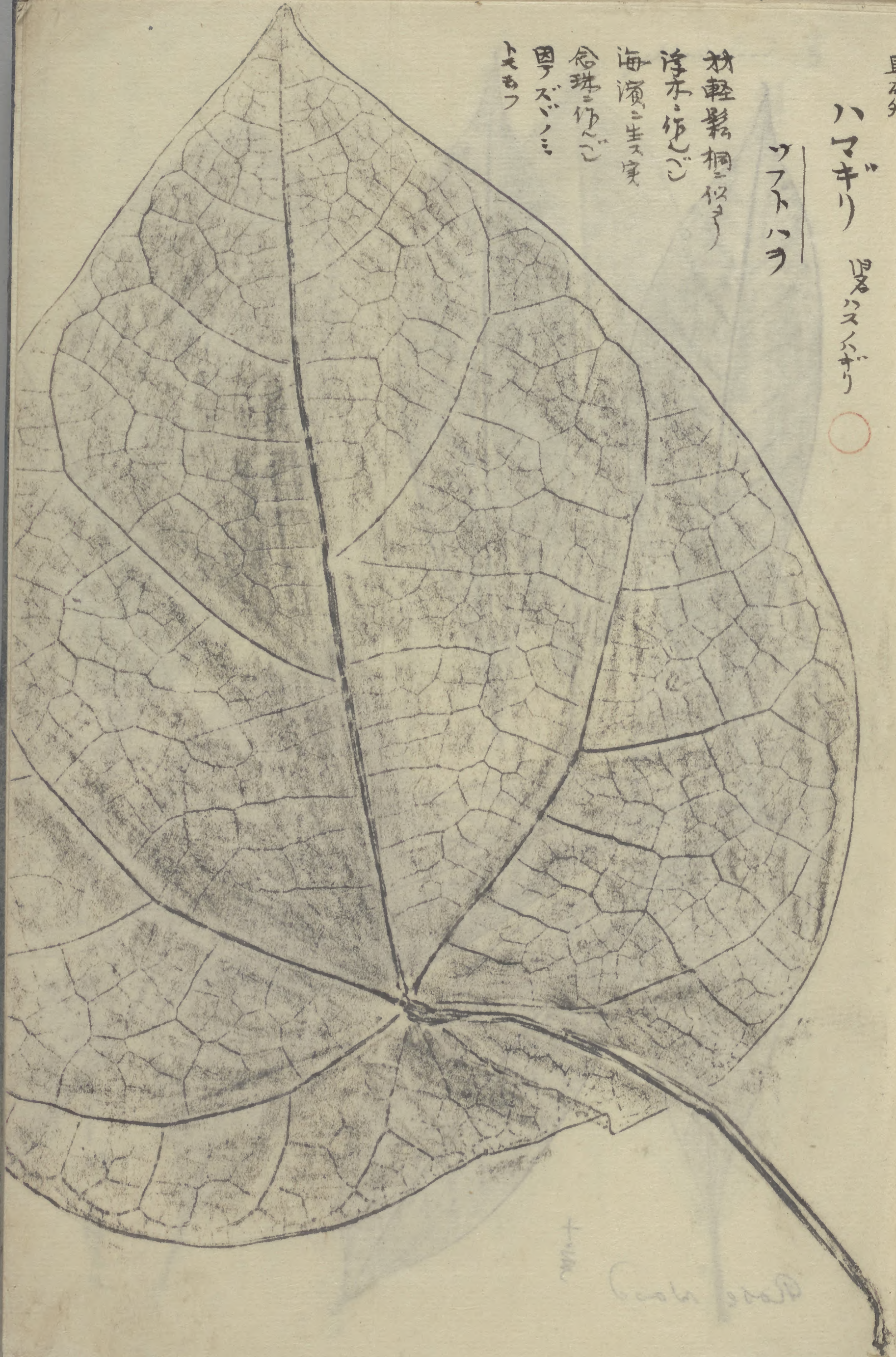


見本外

ハマギリ 異名ハスノハギリ

ツフトハラ

此材軽鬆桐ニ似タリ
浮木ニ作ルベシ
海濱ニ生ス実
念珠ニ作ルベシ
用フズバノミトモ云フ



yellow wood 十一号

六号 是モ ローズウード ト称スル
此方ノ 山柿ナリ

十二号

Rose wood

[illegible] ペーパウード ハ俳本ノ字也

釣ヤ木 ウツギ種々

博腊ニアリ 茎ミムラサキ トモニノ

Worm wood

貝本も

シャータツク

是ハ土人ノ好ミテ之ヲ キナワカ カトウ氏 是ハ限ル紙ニ之トノ 語ラレト 服部氏云フ

クチナシ 二十九

シャータツク 12

東京大学総合図書館

Bow wood 六号

ビードウード　見本し
斜ナス　ウヲード　[illegible]

葉背細軟毛アリ

axe handle wood 六二号

印 アキスハンウード

三十四号 ヒーペンウード

Red oak

十三号

チーウード

葉 天竺桂（ヤブニクケイ）

四八

イチジク ミヘクウード

見本无

葉 アカウ属

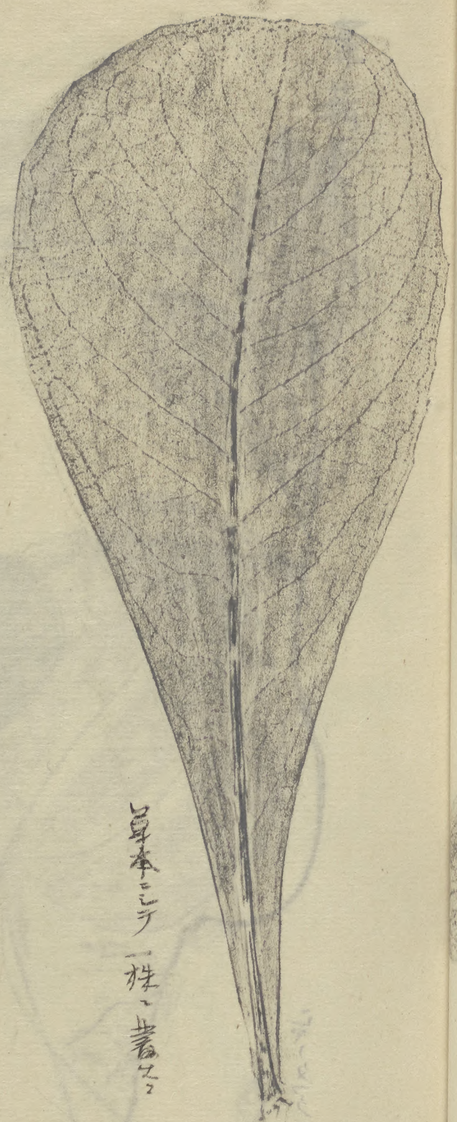
葉 [illegible] イハガ子

六三号
レツド アイロンウード
日本名
大木トナラヌ木ナリ
エルリーウード
葉背ニ mamee tree トアリ
博勝 カミ手 トアルモノ
同物ナリ

ワニリチモタマ ノ新葉

東京大学総合図書館

キヽウナト称ス



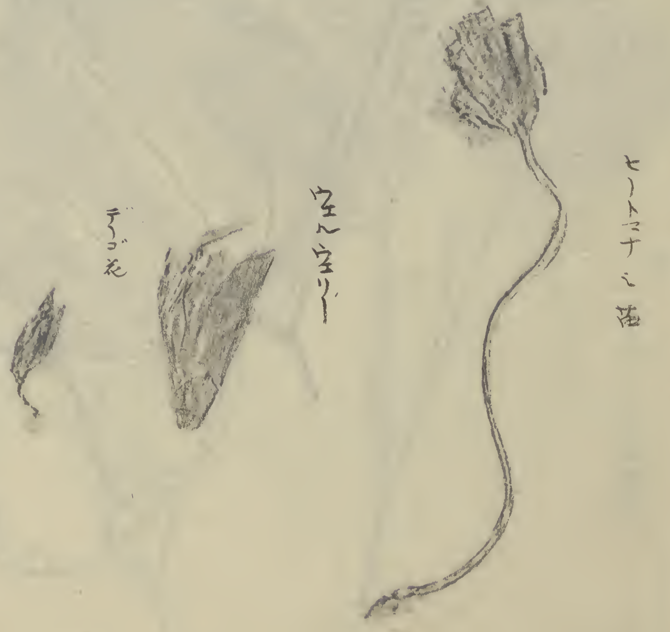
草本ニシテ一株ニ叢生ス

澤蘭之葉ナリ 名ヒレス

華菝葜

ニヤノタアミ華

華 クニバイヒルガホ



東京大学総合図書館

墨

クラマゴケ

ヘゴ

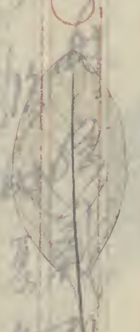
此実ハ葉片ノ周辺ニ縁ヲナス
猶蕨ノ如シ

按 alsophila armata ノ
種ト　モリツ　ミルコム氏ノ推指図ニアリ

東京大学総合図書館

ブレッキ[illegible]

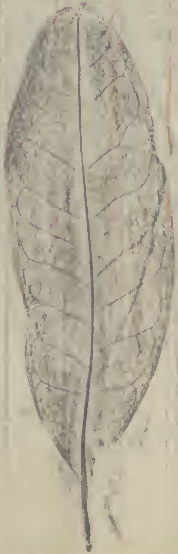
十五年一月十五日 西ヶ原山林試験場ヨリ来ル



シャーメツ[illegible]

モーンテンハーツ

エローウート



英島ニ角腰之通トモフ

即黄槿ノ犬大種

ヘゴ

蛇木 又 九八

其葉ノ結実スルモノハ一葉片
但シ熟シテ茶褐色トナリ縦ニ二至ル
其実ハ本ヨリ六分程ヨリ点付ス

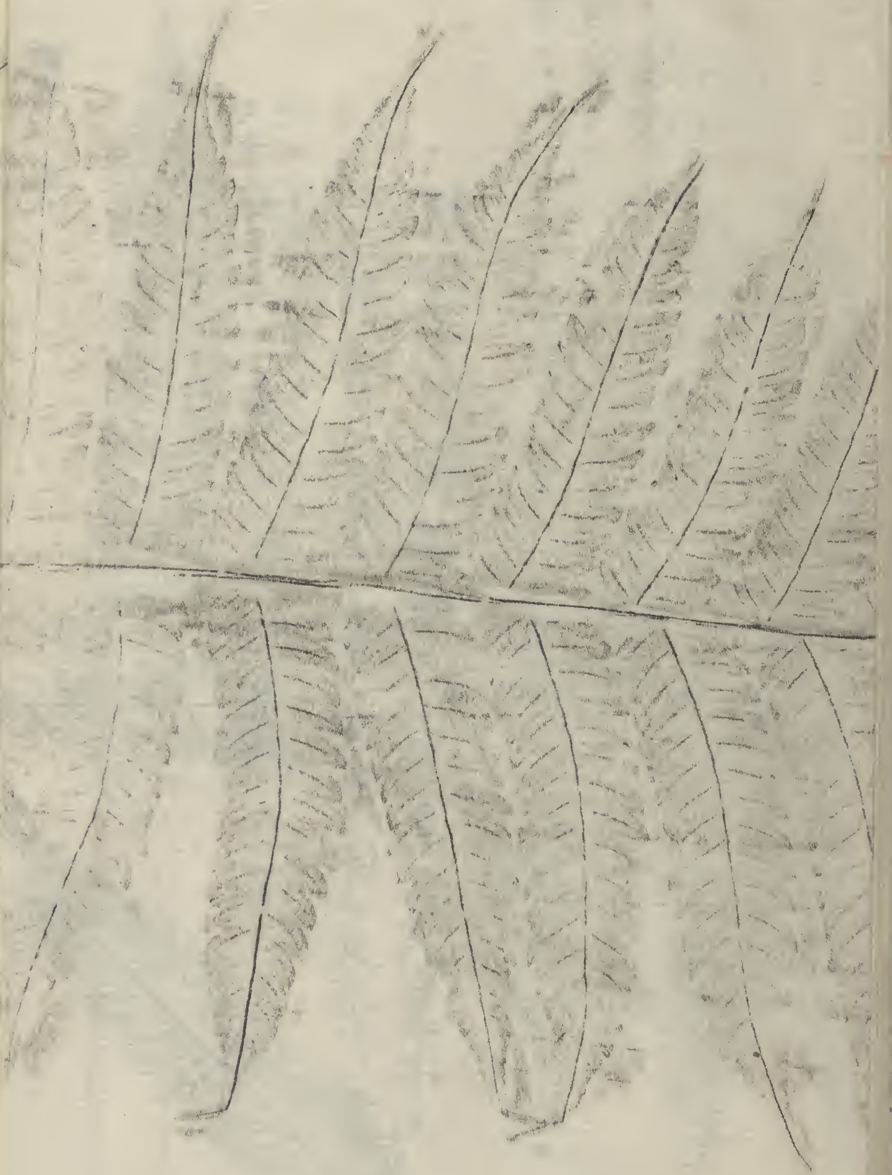
嫩実ハ白色ニシテ小葉ノ中
心茎ノ左右ニ散布ス
此品ハ Alsophila armata ニ近シ
彼ノ図ヲ見ルニ実ハ小葉
片ノ左右ニアル又状ノ小筋
ニ其又内ニアリテ中心ノ左
右ニキク実トスルヘシ又
幹 標ヲ以テ比較セス

此以下ハ博物局天産課ニ於テスル所ノ
十三年三月小笠原島勧農局出張所ヨリ贈
付スル所ノ乾腊葉ヲ墨刷スル所ナリ

東京大学総合図書館

八丈方言 ヒダ

按 是亦 蛇木ノ葉ト同物ナリ



クズ　葉ニ缺刻アリ

東京大学総合図書館

イグマ 八丈方言

栗 リウノリシタイ

無名十字小草

梅 ワウニシタ

キヽヤウラン

モーンテンハーヲ
即ハマボウ

八丈方言
イチビ

東京大学総合図書館

ヤマクス ハむ

但無名

シタヤク ハむ方言

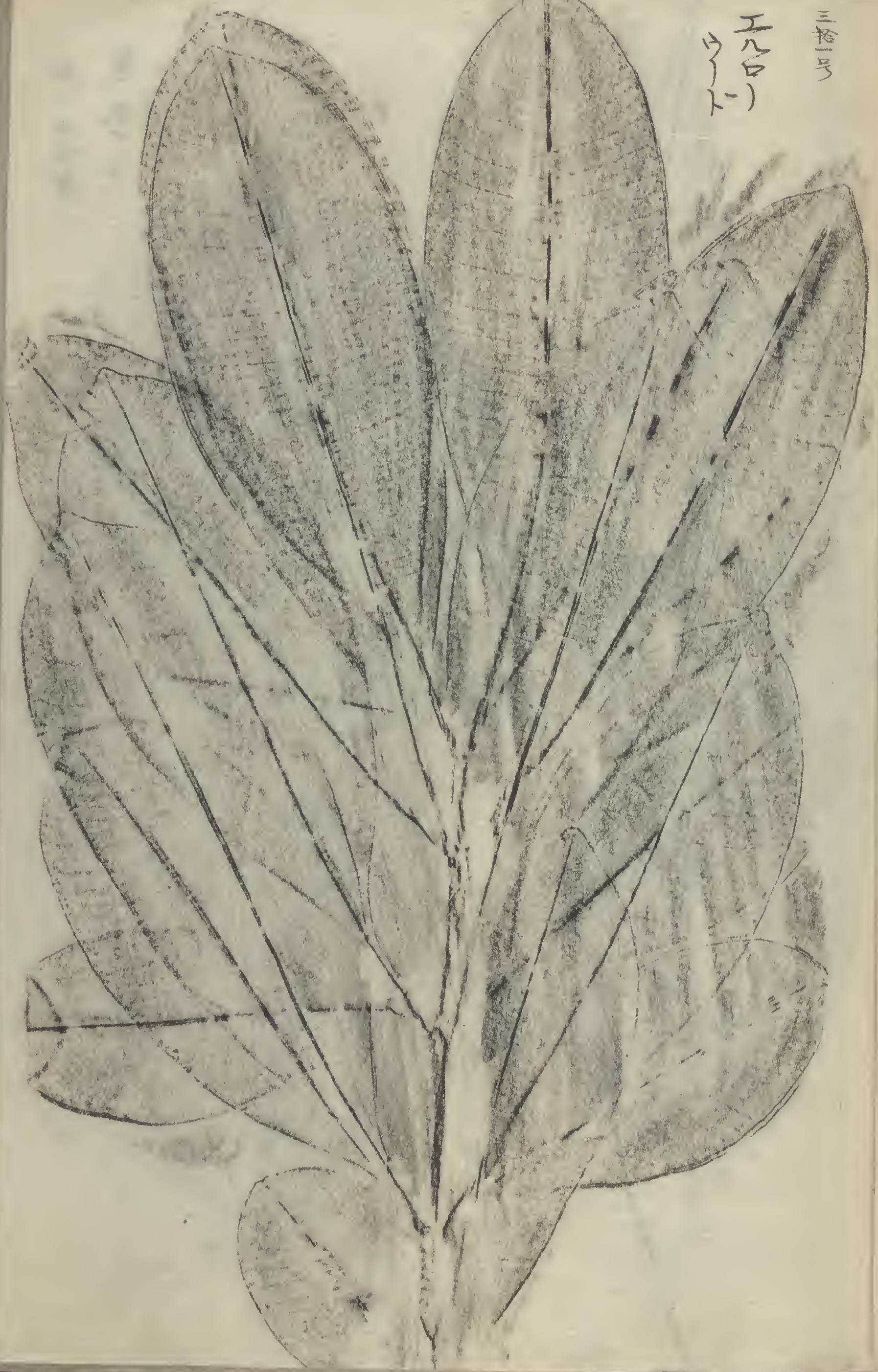
按ニムラサキ

今年試島產小木幹ヲ得之 幹ノ中心空虛ニシテ頭ニ孟抜ヲ西ニ車輻狀ニ生ス又各孔アリ本幹ニ通セリ外ニ幹ノ各示ニ四孔本幹ヲ繞リ幹肉ニ通スルモノアリ 服部

ハ是ヲ本条ト同物トス

三拾一号

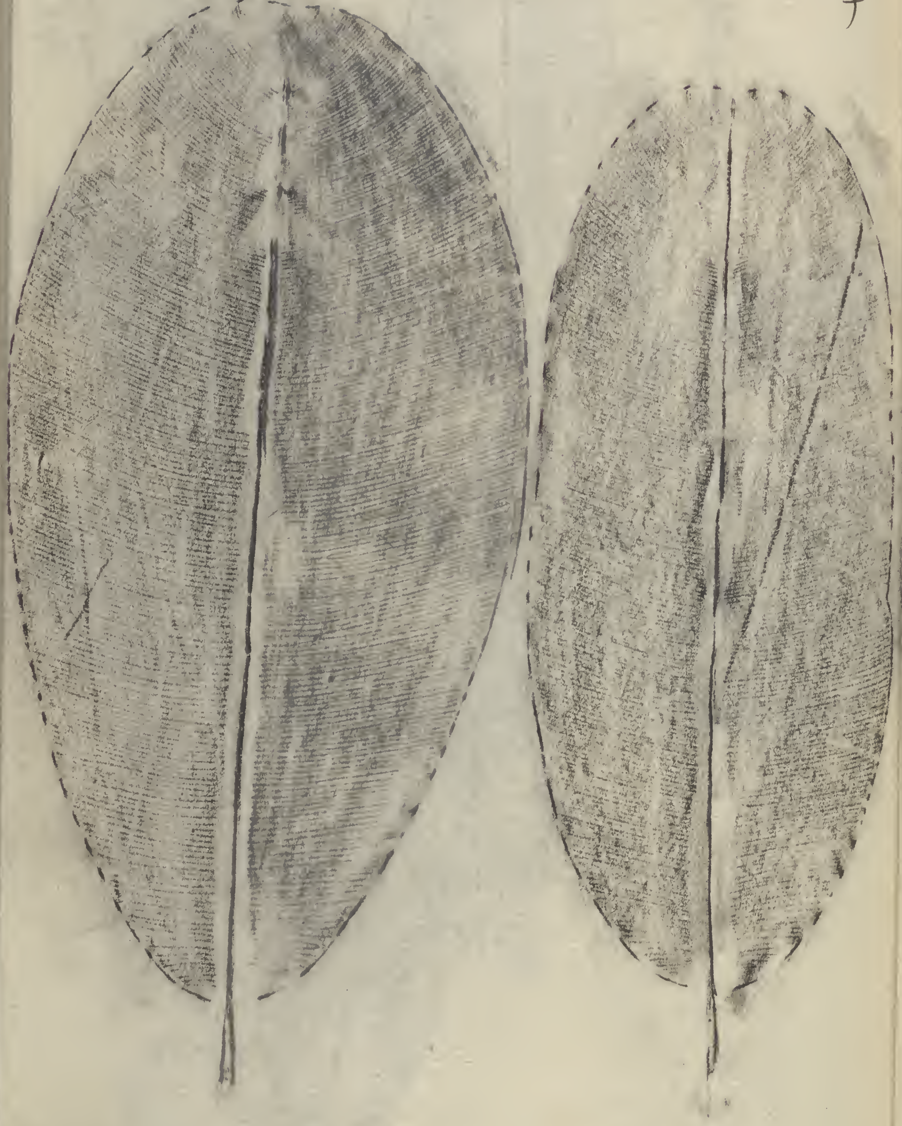
エハロリ
ウード



ヒメイチゴノ
又トキハイヌビハ

男

カハヤナギ
葉脉ナラ
イハガ子


ヒートリマナ
冨山ヨ
状彷白色

ブラツクバルク
アイロンツリー

レツド アイロンツリー
東八丈産 イハキ

四十一号
ニレートリマナ
富山日光材赤褐色

壱号
ロースウード
葉ツクバネガシ

東京大学総合図書館

三十九号 ケーウート

ヤブニクケイ 一種

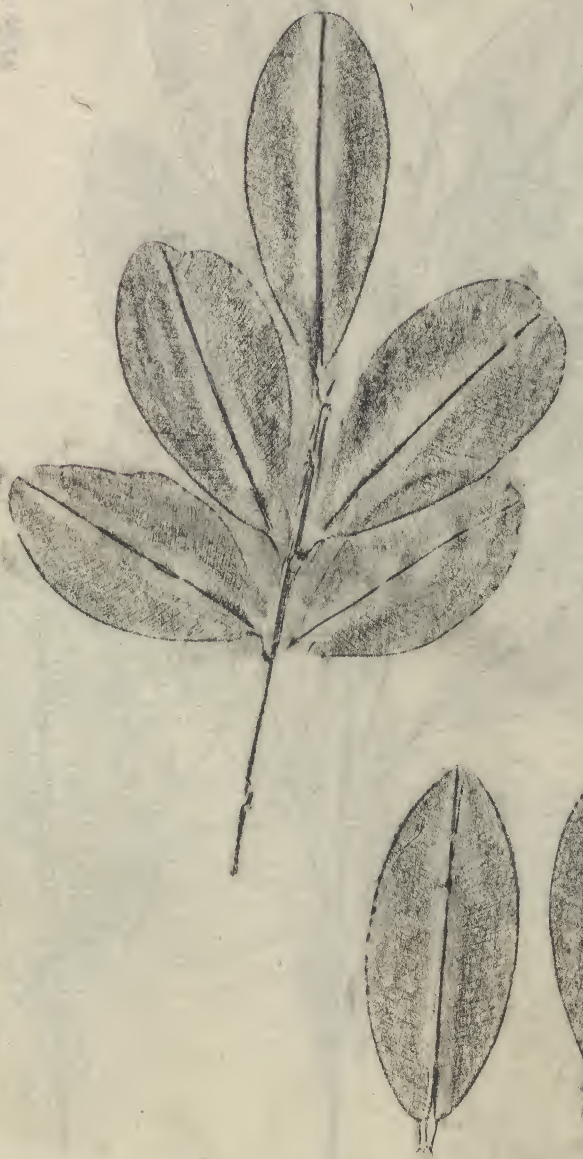
クメ方言 タミノキ

三十五号 無名

トベラニ似テ葉背褐色

十三号

サルトリイバラ



原無名

服部寛一郎曰

是ハ ヲートマナ ミ 小本[illegible]

ソフトウード

アカツク子

東京大学総合図書館

十二号 無名
梅 イス手坊

十三号 無名

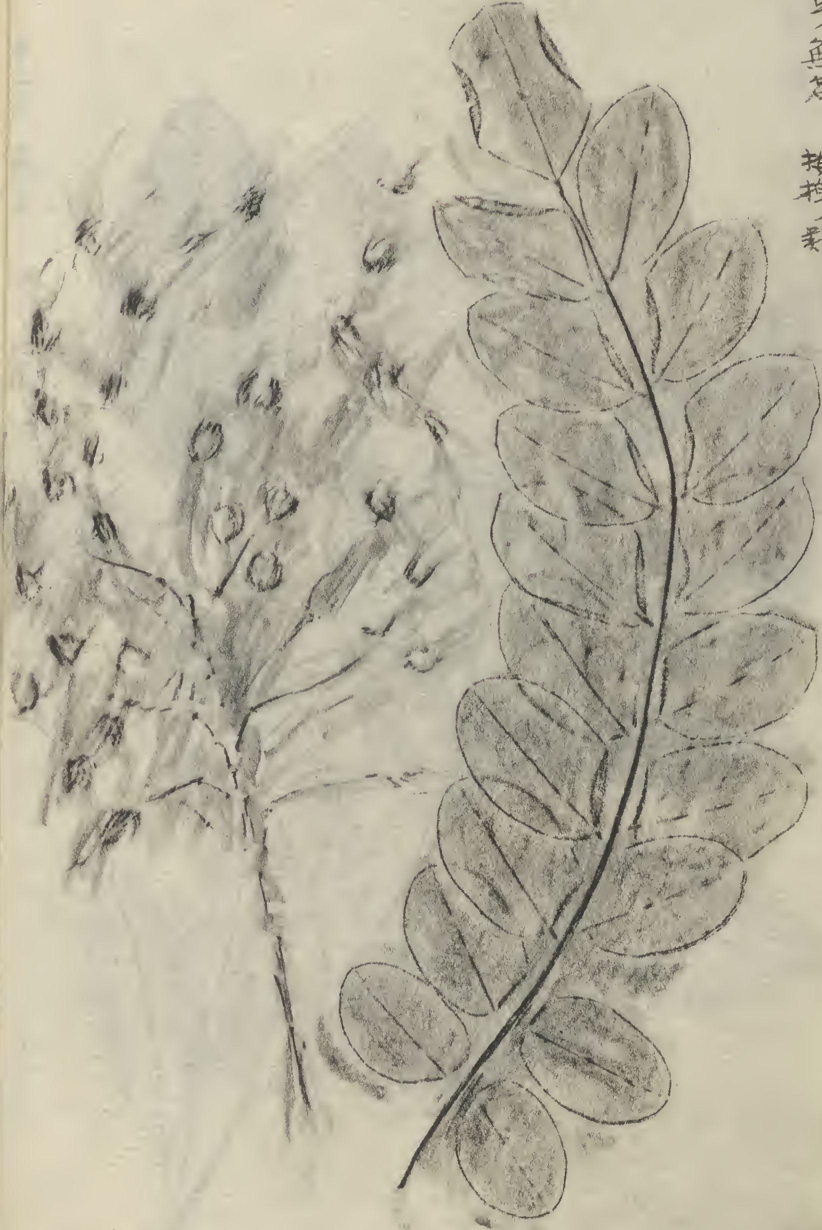
十号 無名

田代氏話曰 黒檀ナリ琉球産ト同

諸地臘葉中第一等品ナルヘシ

十一号 無名 按梘ノ類

葉背白色



九号 無名

薩 ヒノキバヤドリキ

八号 無名

五号 ヤ[illegible]

七号 無名

東京大学総合図書館

二号スプルース
栂子ズザシ

一号無名
田代評曰エラキ属歟

十六号 無名
ハマ ミヤキ

モチノキ

二十三号 無名

梅契手收

六八号

梅 黄楊

六十六号 無名

梅ツヽヂニ似タリ

六十七号 ようニ似テ

葉背褐滑

無名

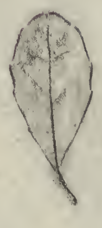
六三号 同物

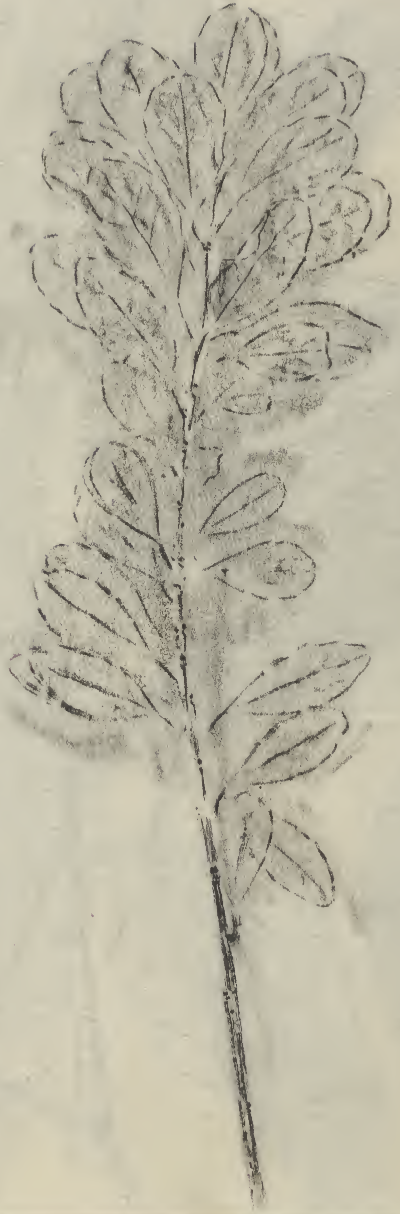
六四号

桜トベラニ似タリ

イヌツゲ

按 西ノ原試験場ニ無キ義アリ又数アルヘシ





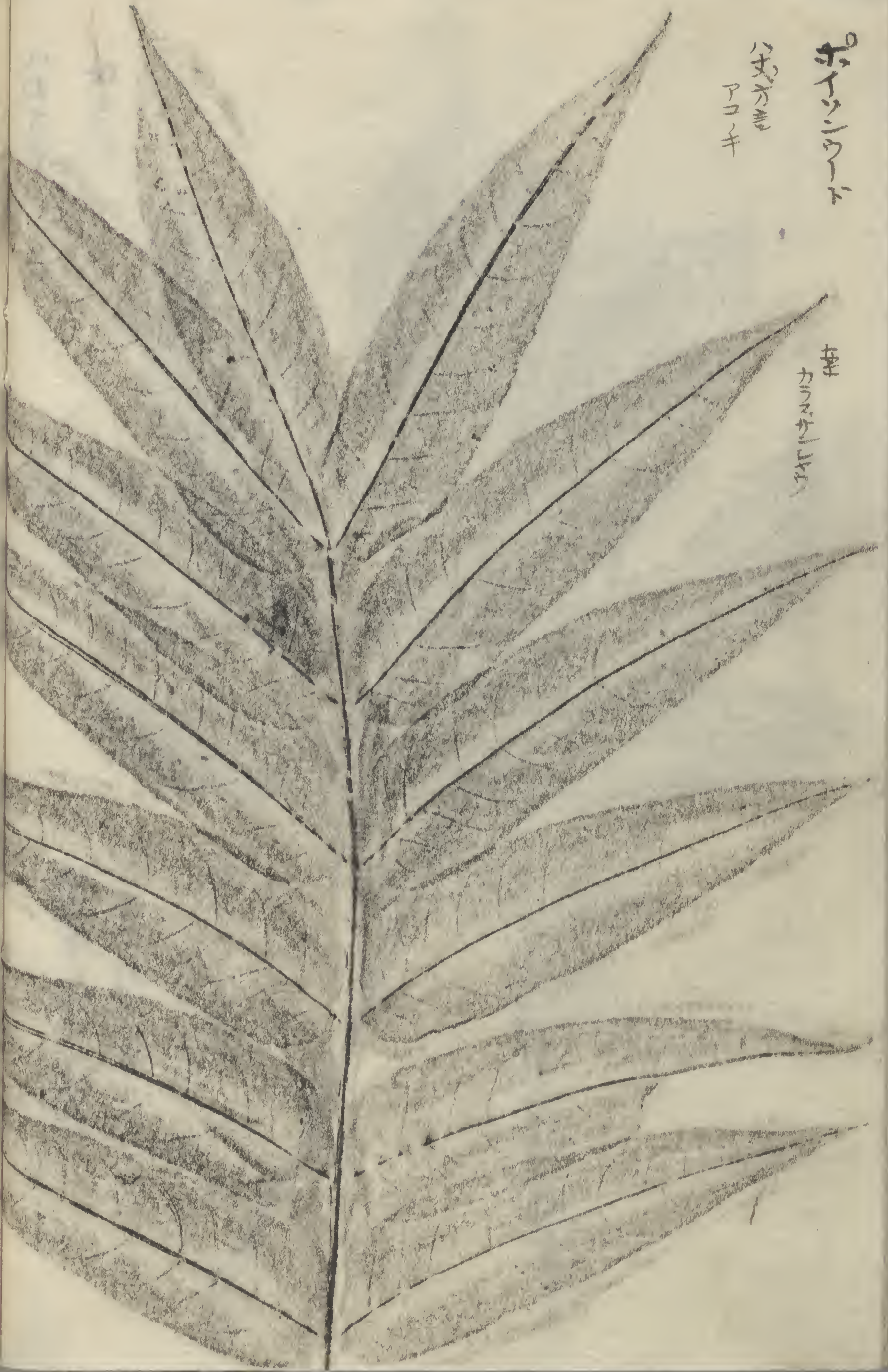
八丈方言 ハビラキ

按 ヤツデ

服部雪斎曰 伊豆島ニ三種アリ
小木ニメ山地ノ如キモノ及ヒ大木ト
ナリ数十年ノ葉七八尺ニ
及ヒ生ニ及ブトアリ

ポイソンウード

八丈方言
アコノキ



葉
カラマサニシヤン

三十八号
クハノハ

大サハ 長一尺 幅七寸五分アリ
縁ヲ缺刻セ

三十七号　カラ手

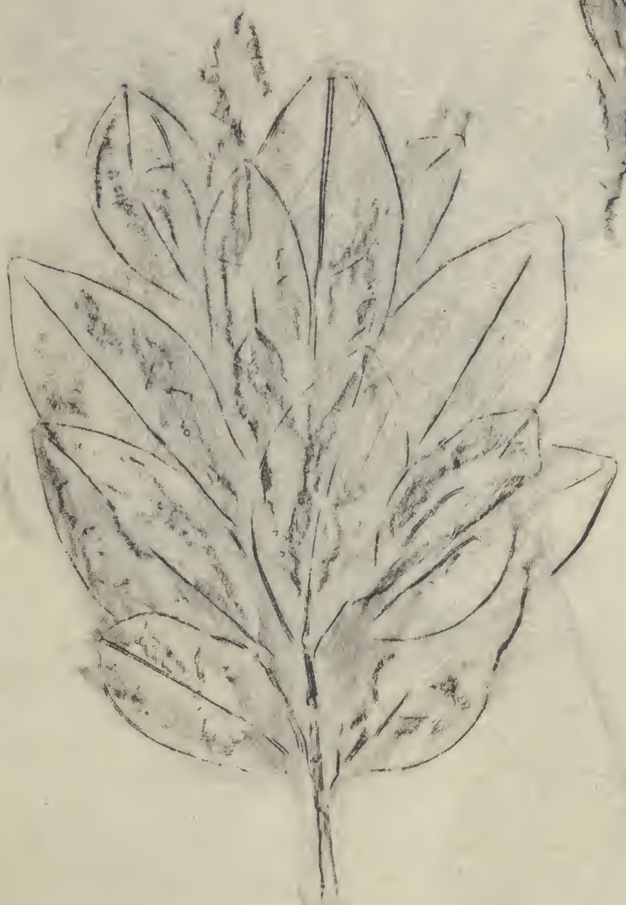
一枝　楮ニ似テ葉細　背柄茎並ニ粉白色

八丈方言

カゴフチノキ

一枝長崎ヤマスワウ

ミテハクサンボク也



四十四号　子ズミモチ

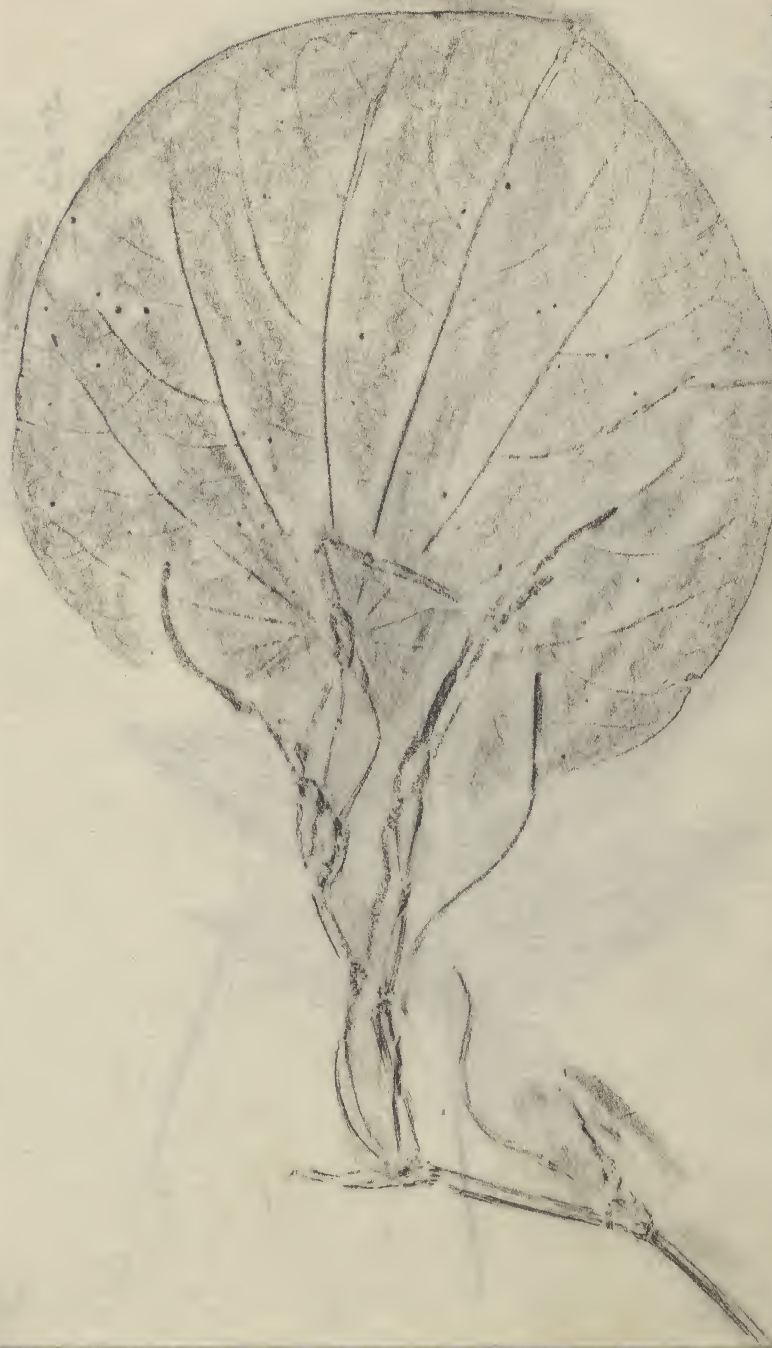
エ手

東京大学総合図書館

罜弓
ナツボウズ

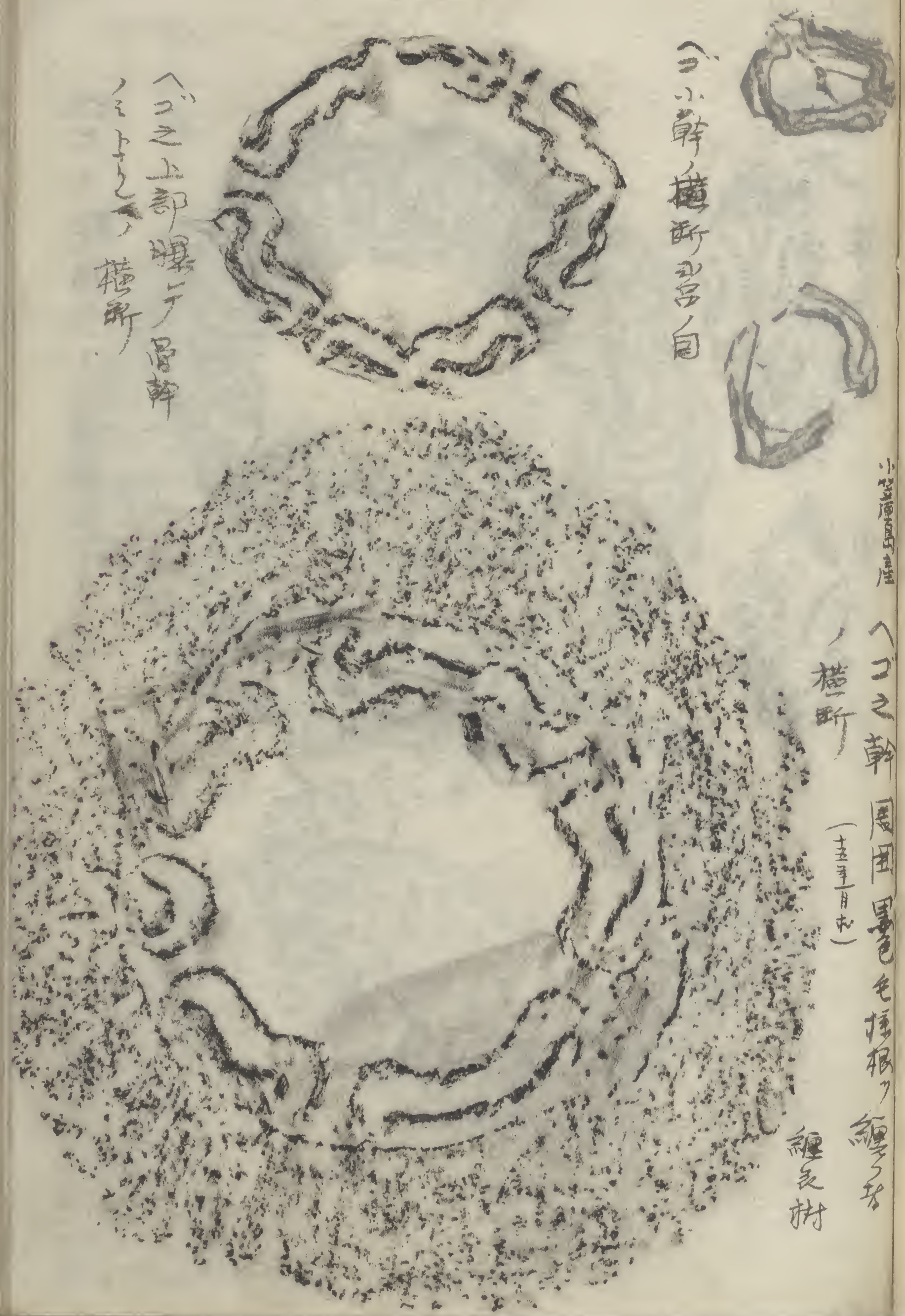
ムクロジ

以下ノ木幹ハ自ラ購求スル二品ノ外皆博物局ヨリ参ル品ナリ今印
刷シテ杪欏ノ区別ヲ示サントス　而シテ小笠原島ニハ三品見ルカ如シ
内一ハ琉球産ト同物ナラン
服部雪斎曰　ヘゴ　ニ　幹ニ　ヒロキ様ノ者ノ纏フ尋常墨色ニテ　絡フ多
ナリ　今博物局ニ来ルノハ　多クハ　茶色ノ方ニシテ黒色ノ者ニ乏故ニ絡ヲ方白シ
又全幹ニ花モナキハ　飾者ノ為ナリ　又細幹ノ者ノ如キハ　全ク時形ノ者ノト独
スルニ　葉モ既ニ落タルニ　小嫩葉ニテ　大木ノ者ノト同シカラス
葉ニ　幹ヲ護フ下ノ鬚根ハ　根ノ用ヲナスハ　本幹ヲ維持スル　為ノ効アリ
如何トナレハ　幹ノ本ハ細クシテ　次第ニ太クナルモノナレハ　之ヲ維持セサレハ倒レ
ザルモノト考フ或ハ大陽ノ　光線ヲ防クノ用アリ



十五号　無名

[illegible]胡椒科

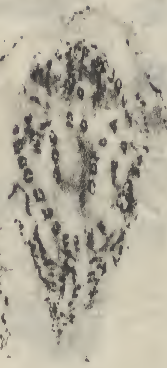

ヘゴ小幹ノ横断呈白
ヘゴ之上部[illegible]ノ骨幹
ノ[illegible]ノ横断
小笠原島産 ヘゴ之幹周囲黒色毛様根ヲ纏フ者ノ横断
（十三年十月末）
纏良樹

蛇木又龍鱗木トモフ標術（十五年一月寫）

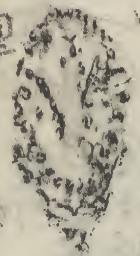
下

上

葉ノ落タル跡



同



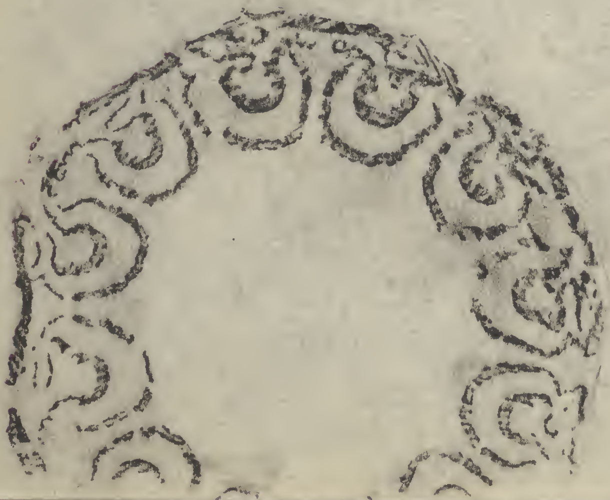
蛇木

博物局所蔵

長一尺余ノモノ

茎ハ上ノ方ハ晒ニテアリ

長七八寸ノモノ



次ノ蛇鱗ハ即此品ノ外面ナリ

博物局
小笠原島産 蛇木
長サ一丈二尺七寸（三丈余ハ是ト同シ）

上部ノ切口

上部ノ外面

同外面

下部ノ切口
下部ノ外面

鬚根ナシ
中部外面
葉痕
葉痕ノ外ハ毛茸
鬚根纏フ

上部外面ハ葉痕ノ外ハ毛茸アリ

前面ノヘゴ上部ノ切口

上部外面

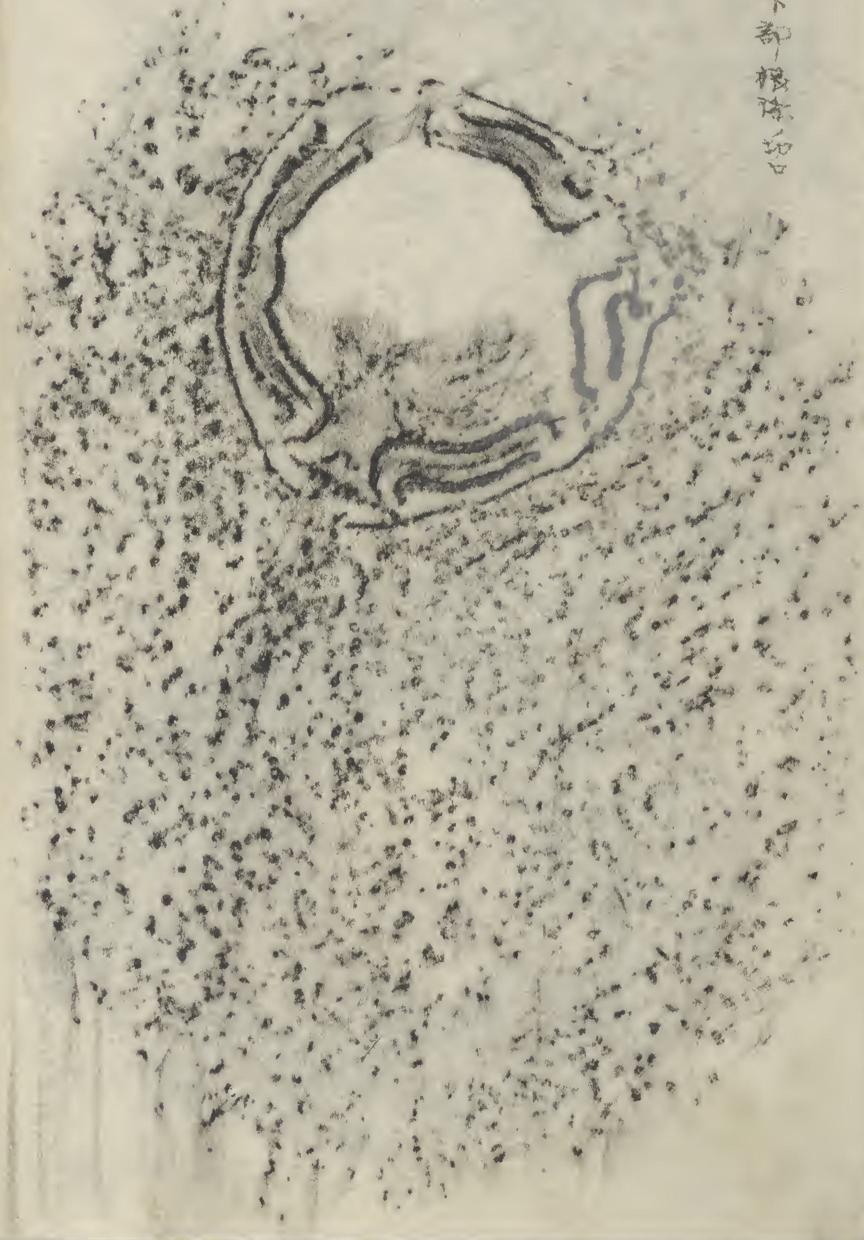
葉痕ノ外ハ毛茸アリ

前出ノヘソ上部ノ切口

大川藤吉ニ命ジテ精細ニ横断セシメタルモノ

同上

前記ノ
ヘゴ下部ノ根際印ス

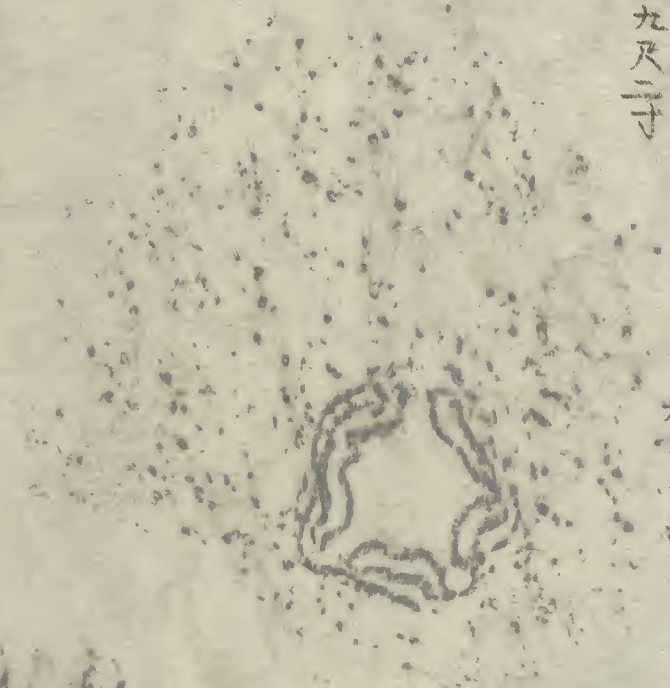


ヘゴ　二丈二尺五寸アルモノ
根ノ下面ヨリ印ス

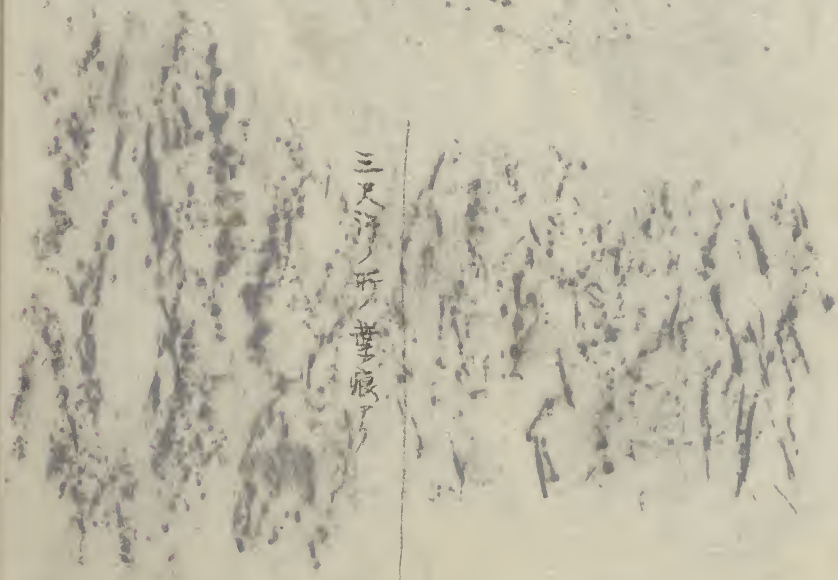
ヘゴ

細幹ノモノ径二寸五分

長九尺二寸



是ハ曾テ生幹ノ侭来ヘタノナラン

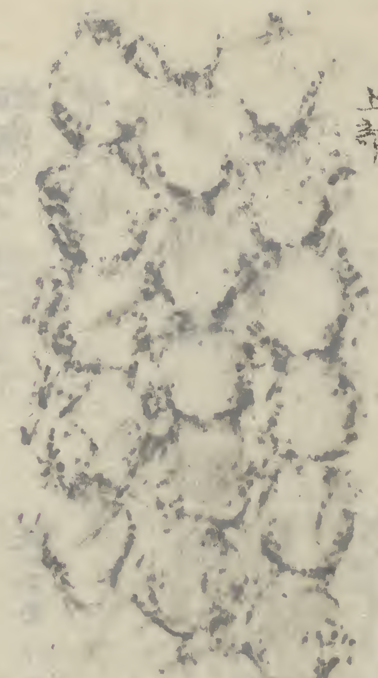


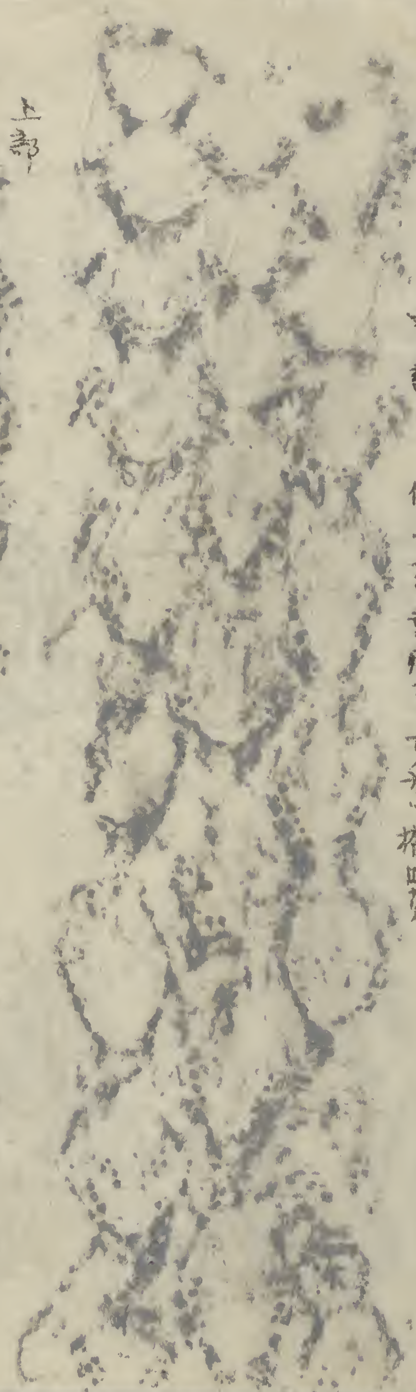
服部日如氏 細幹ノモノ 変物ニテ尋常[illegible]ナリ

但右ハ小笠原島産 見大ナル残ノ東ナリ

鹿児島産ヘゴト同物ナリ

浅井来勝ト同物ナリ





但上ノ方ハ葉痕无ク下ノ方ハ擂田ナリ

東京大学総合図書館

右 下部外面

明治十二年三月 曲直瀬氏ノ蔵器ヨリ摸写之 へご 華蝶

右ノ太田秀吉氏ニ示ス 同氏 忽ケ彫塑ヲ以テ 霊芝ヲ刻セシ

蹟ハ是目彫刀ノ工合甚タ宜シキ 画上ニ 霊根 蟠踞

呈天琉 七宝ナリ

上部外面

鹿児島縣下産ノモノ前ノ品

上部ノ切口

博物局金蔵
[illegible] 但シ生活スルモノ
鹿児島縣下産 ヘゴ

東京大学総合図書館

博物局　生捺ノ写

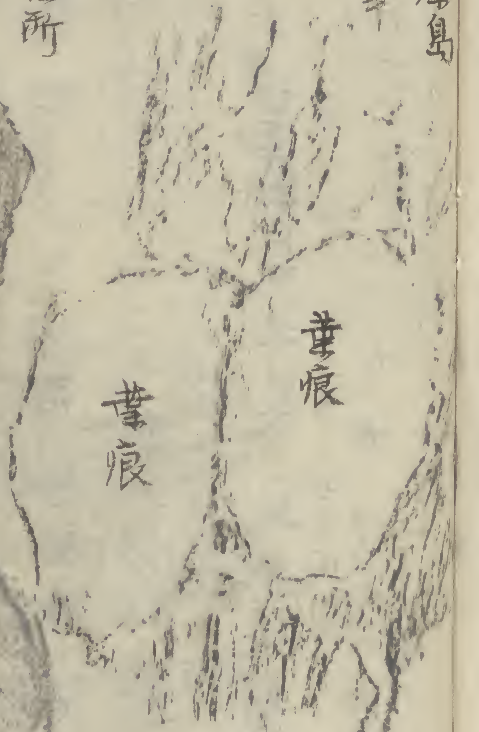
鹿児島縣下産

ソテツヘゴ

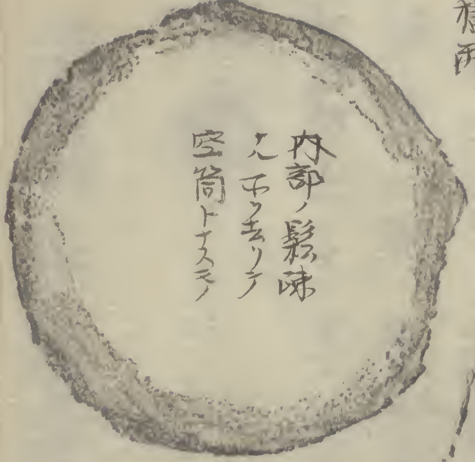
小笠原島

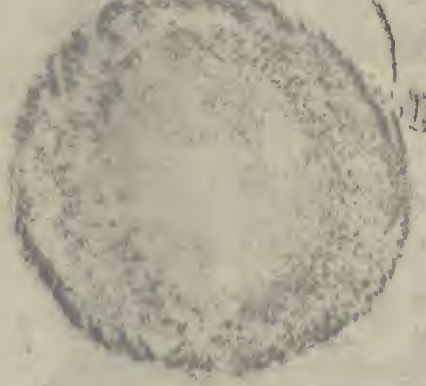
タコノキ

外面



幹ノ横断所





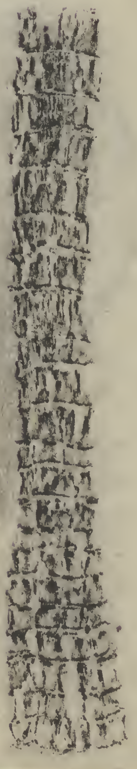
小脚根ハ太サ寸ニ若クスジテ上下ヲ通シ同様ナリ

脚根ノ横断

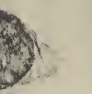
内部ハ影跡尤明ナリ纎維ナリ

是ハ長七尺余ノモノヲ切タルモノナリ

此樹長部ノ幹ハ今年購求スル所ニシテ外面鱗皮ノ痕多シ



横断ノ形



芯ハ疎鬆ナリ

此植物ハ山中ニ多ク生シテ岩上ニ生シ又ハ高樹ニ纏ヒテ攀登シ或ハ樹ノ
幹ハ枯テ此蔓ノ成長スルコトアリ　葉ハ鳳尾ニ似テ彼ノ四尺一仞ニ満ツ
長サハ彼ホトアリ悪シテ縁ニ鋸歯アリ人手ヲ傷ケ是山中往
返ノ害物ナリ　土人之ヲ忌ム　然レ氏岩石ヲ攀登スルニハ此助ケヲナス
トス

曲直瀬氏曰是林投ノ一種蔓性ニ匍匐スルモノナリ因テツルアダン
ト名ツクト云

十二年一四月聞ク所

以下十二年増加

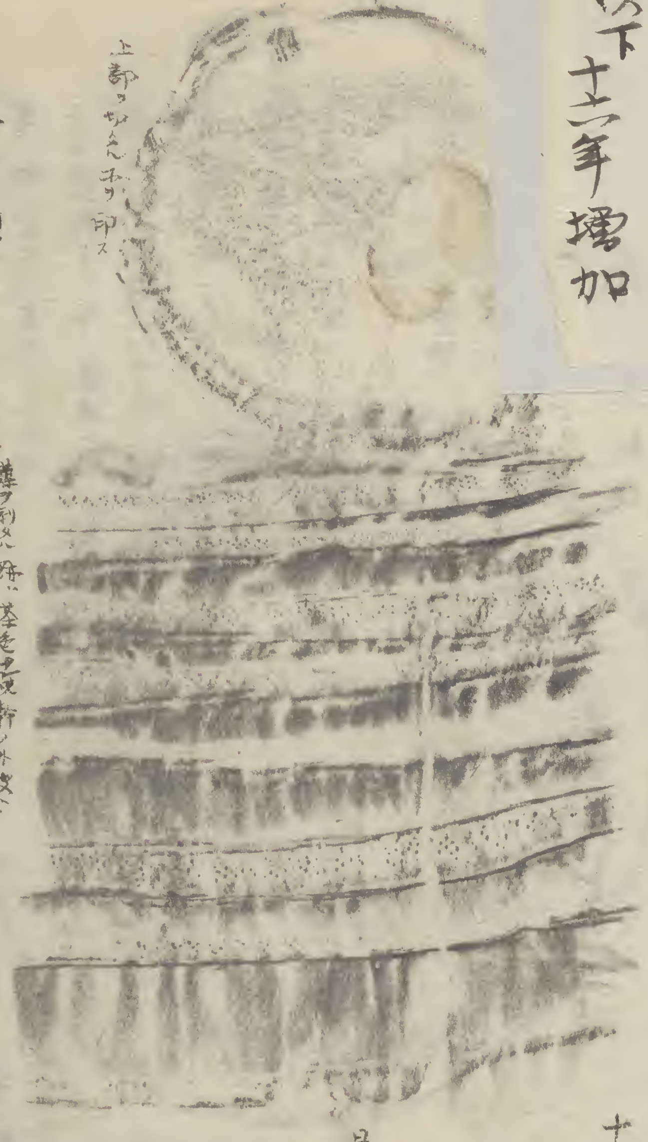
内ニ支那物アルハ先年ノ舊ナリ

椰子部

Cabbage palm ノ試島ヨリ携帰ル所

十二年三月　池田曲直瀬両氏

十七日試食

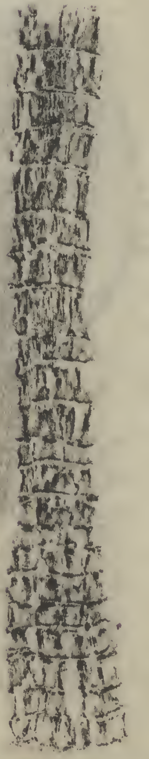


上部ヲ切リタル所ヲ印ス

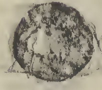
是ハ外面

是ハ茎頭ヲ切リタルモノニシテ（葉ヲ剥タル後ハ茶色ニテ幹ノ外皮ニ）緑色ヲ帯ブ　上部ノ芭外面緑色ナレ氏之ヲ去レバ内部ノ芭ハ
黄色光澤アリ　外面白色　竹筍ノ如シ　剥テ薄葉ナリ　但乾ケバ茶色トナリ易シ　外部

此外長部ノ幹ハ今年購求スルモノニシテ外面鱗痕ノ跡多シ



横断ノ面



芯ハ疎鬆ナリ

此植物ハ山中ニ多ク生シテ岩上ヲ匍匐シ又ハ高樹ニ纏ヒテ攀登シ盛ニ茂

幹ハ枯レテ此蔓ノ如ク暢長スルモノアリ　葉ハ鳳尾蕉ニ似テ彼ノ四尺ニ倍ス

長サハ幾許アルヲ知ラス　緑ニ鋸歯アリ　人手ヲ傷ケ易シ　山中ノ渡

渉ノ害物ノ甚シキモノナリ　然レトモ岩石ヲ攀踏スルニハ大ニ助ケトナス

トラフ

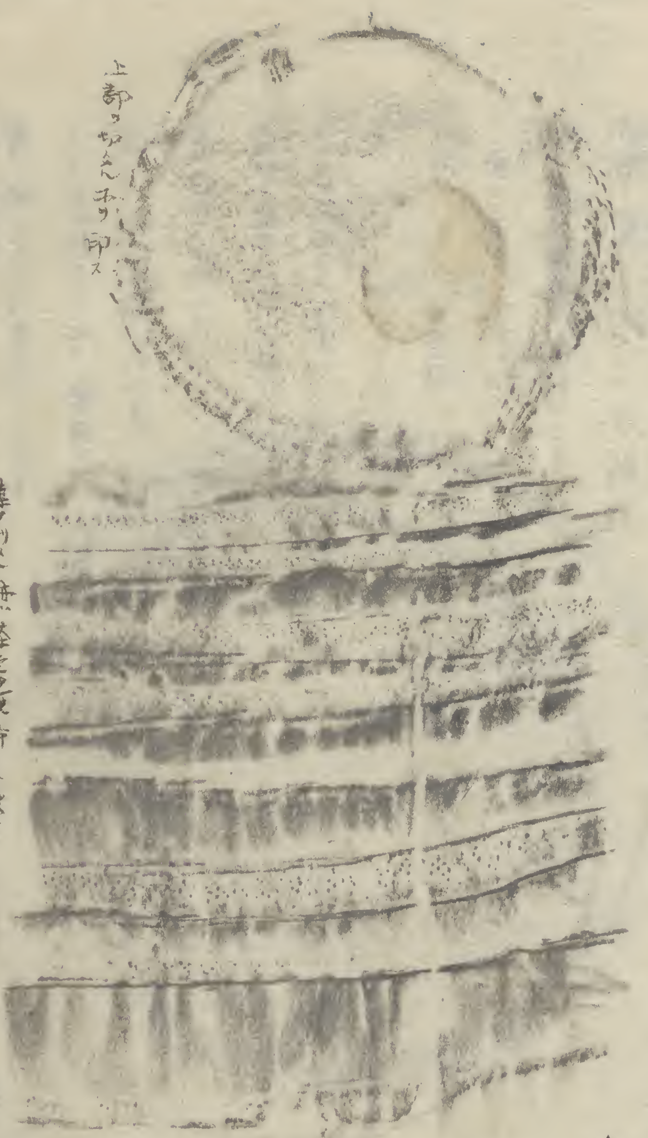
以下 十二年三月四日 是ハ樹枝ノ一種蔓樹ニ匍匐スルモノナリ 因テツルダコト

十二年一四月聞ク所

小笠原島　野椰子　部　Cabbage palm.

十二年三月 池田曲直瀬氏ノ該島ヨリ携帰ル所

十七日 試食



是ハ外面

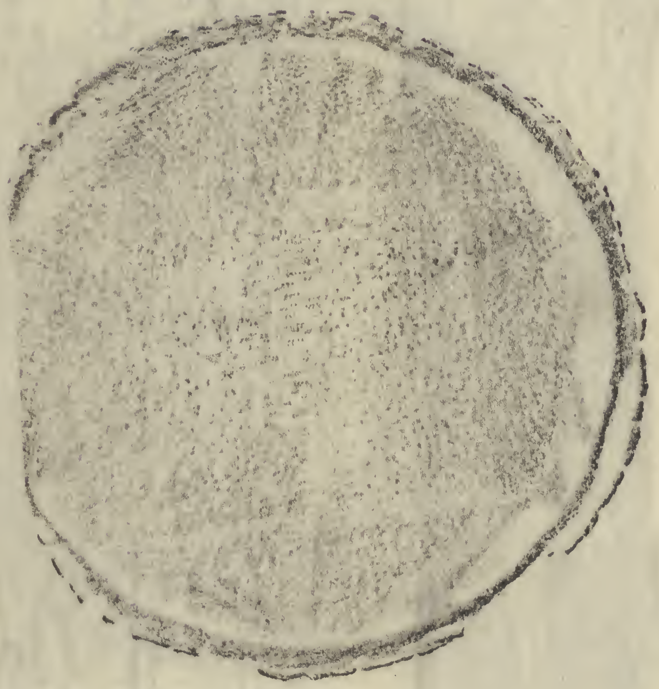
是ハ茎頭ヲ切タルモノニシテ 葉ヲ剥タル跡ハ茶色ニシテ幹ノ外皮ニ 緑色叢葉ナリ 上部ノ苞ハ外面緑色ナレドモ之ヲ去レバ内部ノ苞ハ黄色光沢アリ内面白色 竹筍ノ如シ 剥ケハ薄葉ナリナス 但乾ケバ茶色トナリ易シ 内部

ヲ次テ剥ケバ遂ニ内心葉茎黄白
芽ノ嫩ナルモノアリ其太サ二寸許
ニシテ柔軟ナリ之ヲ食用ノ
部トス味筍頭ノ如シ其
食スル部ハ漸ク一尺許ノ
所ニシテ但シ上部ヲ切リ
タルヲ該地ヨリ持来ル
ナルモ其上ハ如何ナルヤ
ヲ知ラズ故ニ此茎頭
ヲ食スル為メ一本ヲ切リ
倒スト云又此幹軟弱ニシテ
木材ノ用ヲナサズト云フ今幹頭ヲ
横断スルニ忽ニ腐敗シテ繊維分レ黒色トナル者アリ蔬菜トシテ一段ナル味アルニヨリテ
糖分多キト見ヘ自ラ醸敗シ酒気ヲ放ツコト筍又果ノ熟腐シタルガ如シ

是ハ幹頭ヲ横截シタル面ナリ繊維ノミニシテ材面ノ如クナラズ蒲葵ヨリ一層軟ナルモノト云ベシ鋸截断ハ容易ナリトス

小笠原島
野椰子
材横断

十二年三月新鮮ノ材ニ比ス却テ収縮シテ皮較高シ



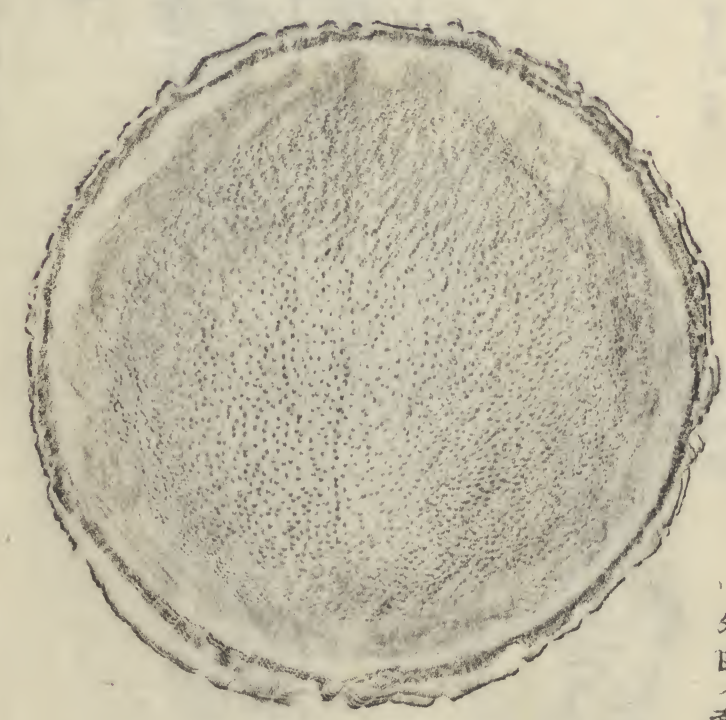
十二年三月 池田曲直鄰両氏携帰ルヲ写ス

田中芳男

小笠原島
野椰樹
材横截

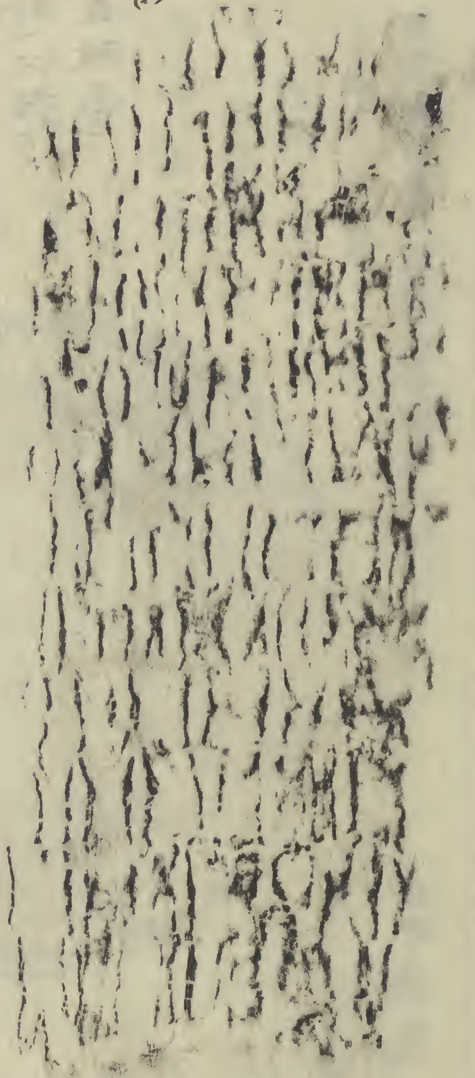
材質蒲葵
棕櫚ノ如クニテ
纖維粗大中
心疎ニ脆鬆
全材淡赭色
皮ハ離レ易シ

十六年四月五日
淡島椿岸ヲ切リ 曲直瀬ノ手



外皮ノ面ニ縦溝アリ

皮ヲ去リ削リタル面ハ棕櫚
ノ材面ニ似タリ
其色微褐ナリ



東京大学総合図書館

エルローウード 黄木ノ義

材色淡黄ニシテ黄楊ニ似タリ質緻密成輪ノ数凡六十四アレトモ分明ナラズ故ニ此輪ヲ真ノ年齢ヲ知リ難シ中心ニ瓢孔アリ外皮面稍抱ニ似タリ

十二年四月二日

淡島ヨリ持チ来ル所也 豊後ノ産

田中芳男記

小笠原島

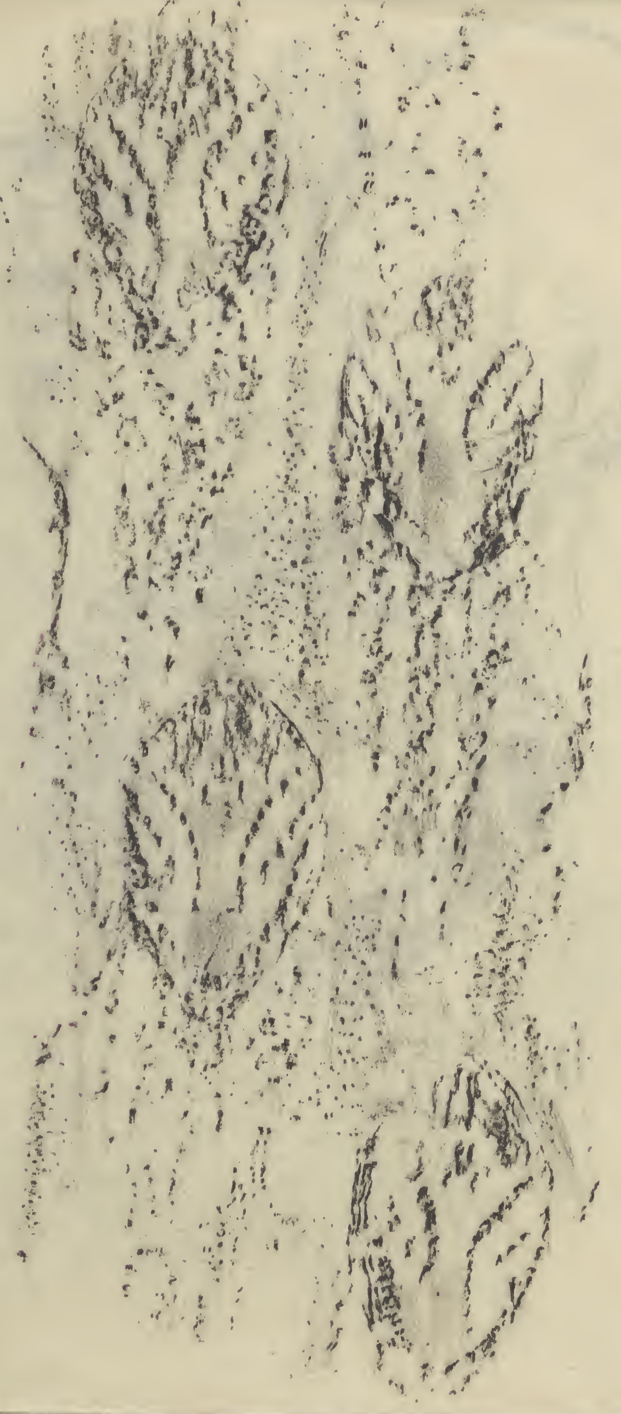
丸八ヘゴ

横断面

ヘゴ 根際横断
瓤白色堅実粘液
アリ生鮮ハ蓮藕
ノ如シ煮食亦似タリ
ト云フ

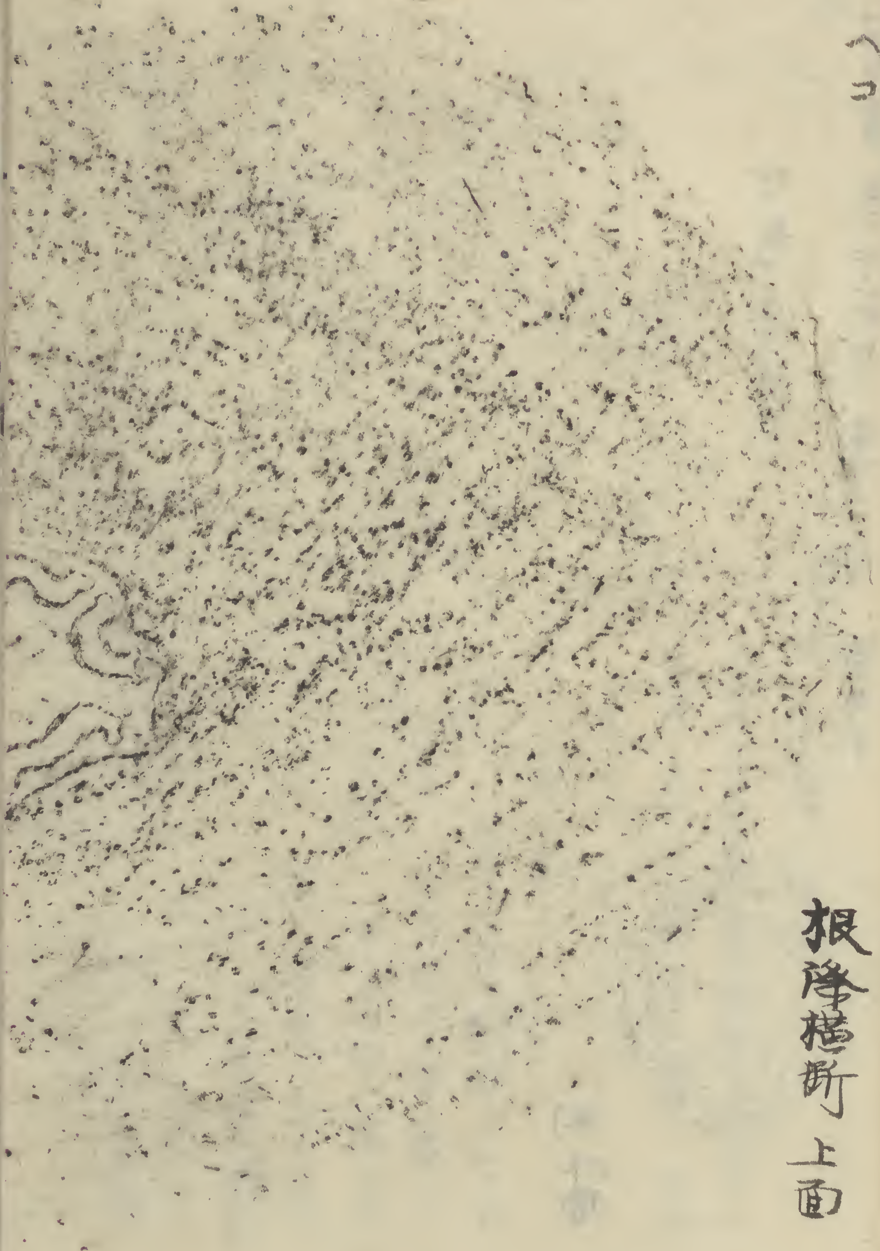
右十六年三月 池田曲直瀬両氏
携帰ヘゴヲ印ス 田中芳男

小笠原島
丸八ヘゴ

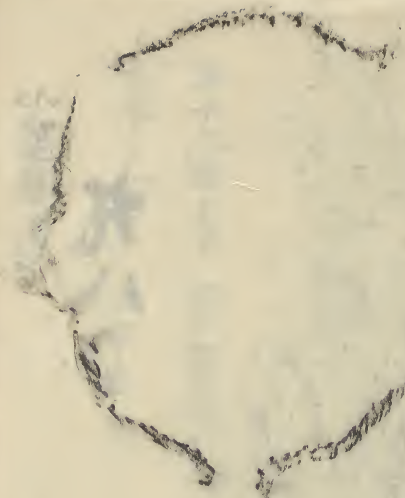


東京大学総合図書館

ヘゴ



根際截断 上面



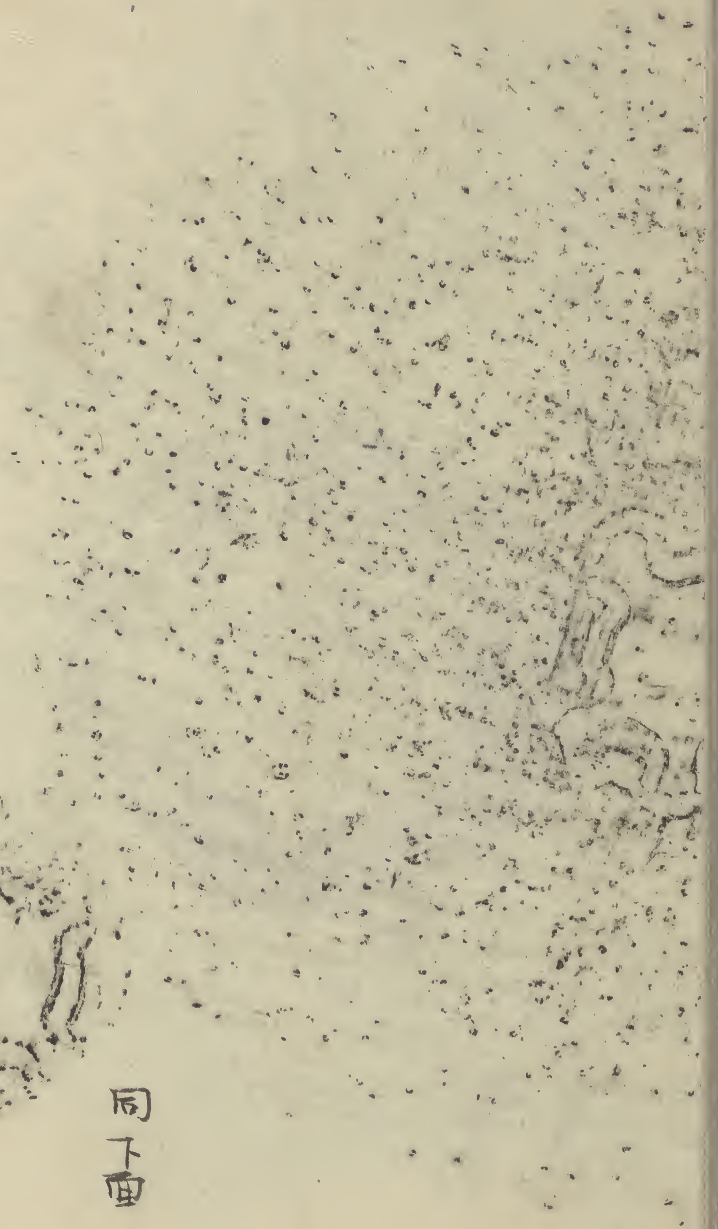
右下部切断ノ面

九八ノ心 打リ捺リ

十二年二月 池田由直殿両氏 搨写シテ呈ス

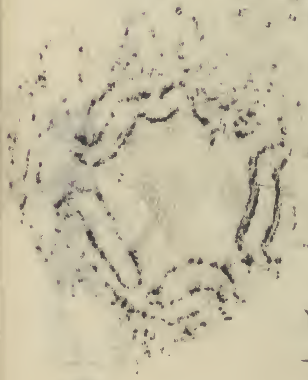
田中芳男

東京大学総合図書館



此長サ九寸許アリ

十二年三月 池田豊賢両氏摸写シテ印ス 田中芳男



同下面

上部

縦截ノ面ヲ印ス

小笠原島 大薯（ヤーム）ノ塊根

十二年三月 試島 直井真隆ヨリ来ル所ノ一

此品ハ長形ナレトモ他ハ皆丕塊状ヲナシ或ハ

分裂スルアリ 外皮白ト紫トアリ 或ハ内部

紫（マダラ）ノ帯アルアリ

此品ハ外面ハ（粗糙ナレトモ）黄濁（カワラケ）ノ如クシテ

内皮ノ面少シク紫ヲ帯ルノミ

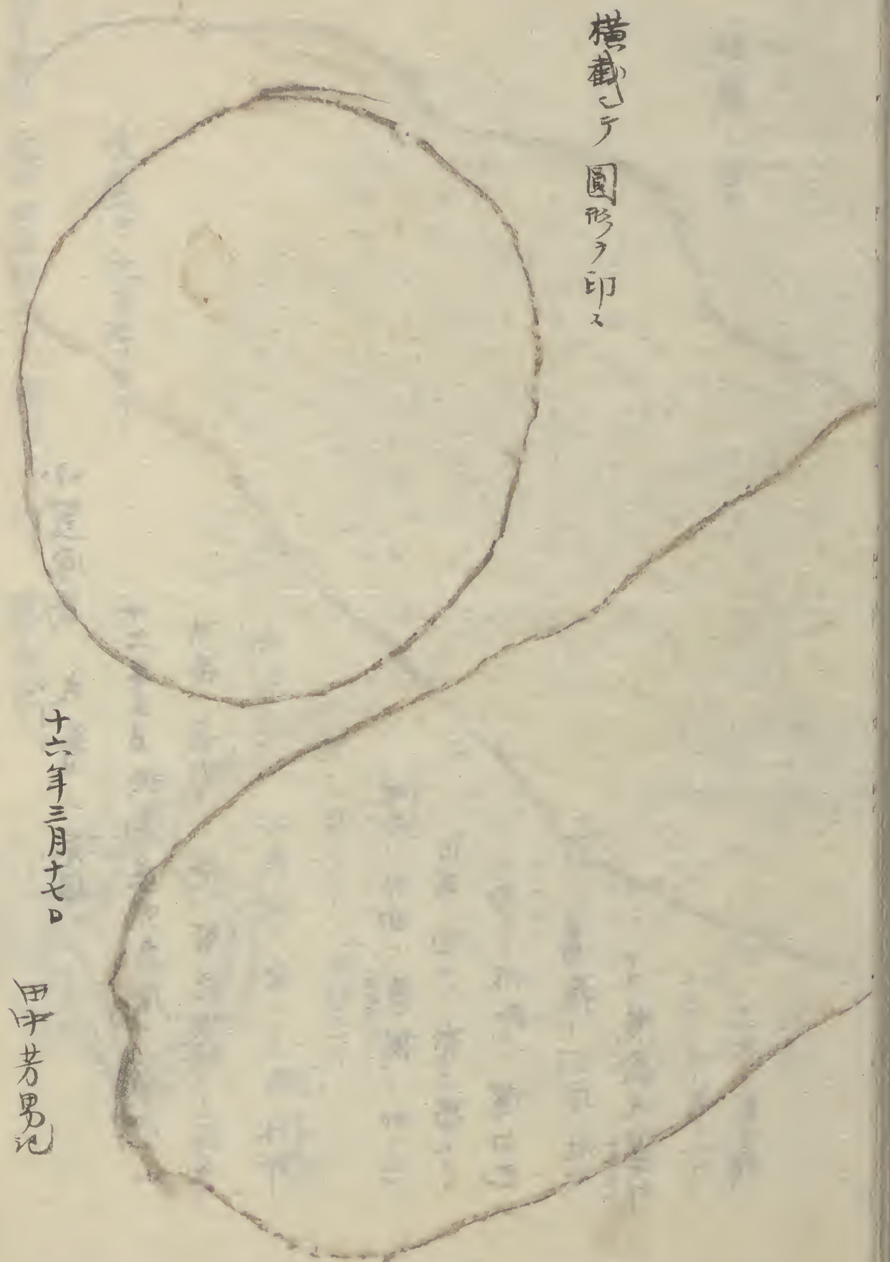
而シテ内部ハ潔白色

薯蕷ト同質粘液

アリ 煮食又薯汁（とろゝ）トナシテ甘美ナリ

上等ノ薯蕷ニ似タリ

横截シテ圓形ヲ印ス



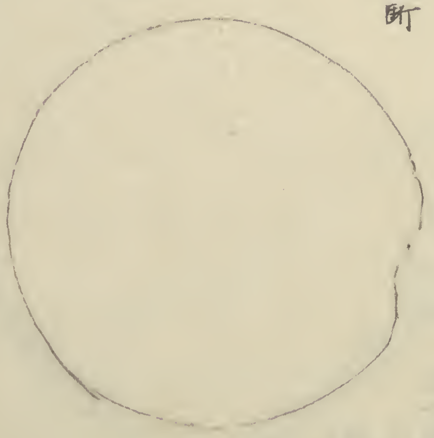
十六年三月十七日

田中芳男記

芋

右横濱清貢之所贈　十六年四月五日　伊藤篤太郎達ス　田中芳男記

外看ハ紫芋ノ如シ　内部ハ白色ニ紫点アリ　精視スレハ紫褐色ノ繊維散在スルモノニシテ細孔ヲ見ルアリ



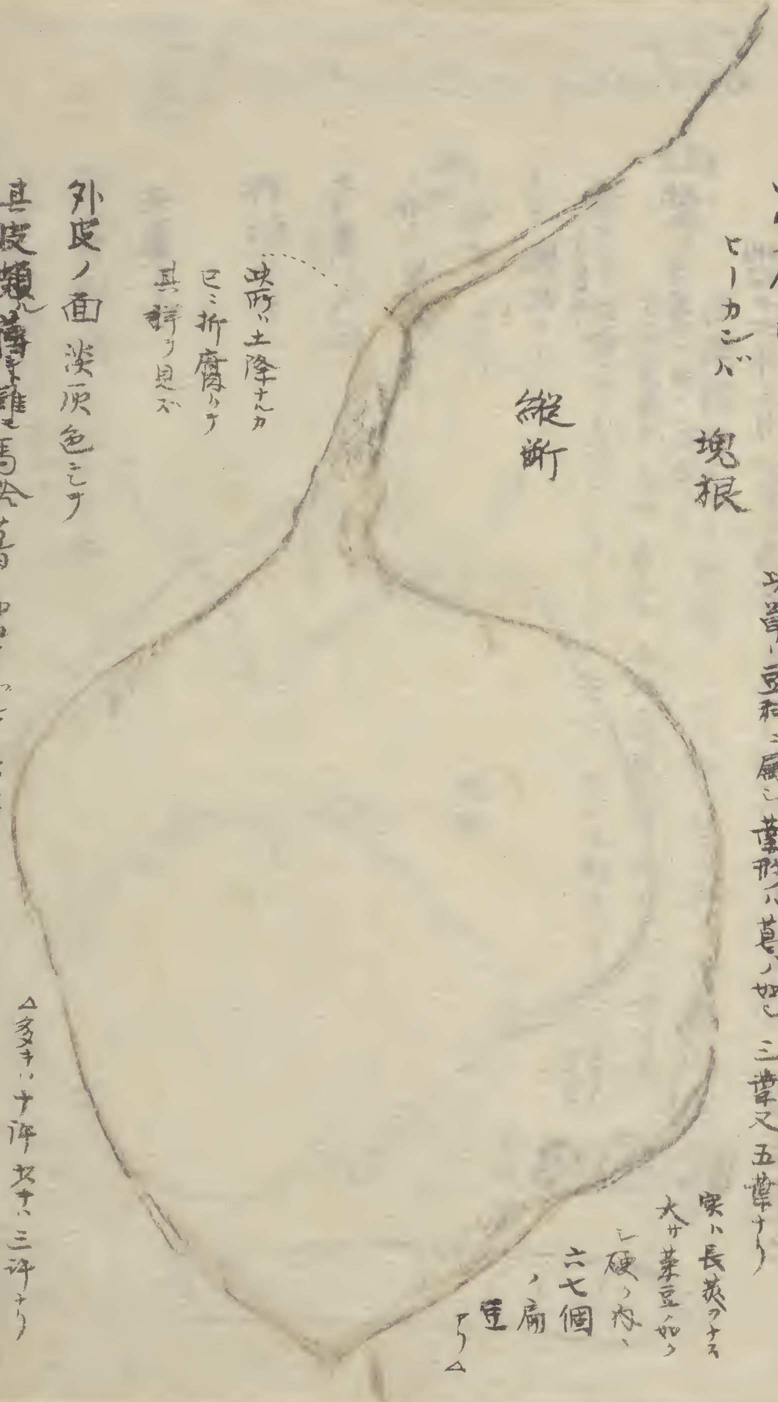
煮食スルニ芋魁ノ味ナリ　而シテ何故カ些ノ辛味アルヲ覚フ

小笠原島

ヒーカシバ　塊根

此草ハ豆科ニ属シ葉形ハ葛ノ如シ三葉又五葉ナリ

実ハ長莢ヲナス大サ菉豆ノ如クシ硬ク内ニ六七個ノ扁豆アリ△



外皮ノ面淡灰色ニシテ

其皮頗ル薄キト雖モ馬鈴薯ノ如ク多ナラズシテ堅靱ナリ

生ヲ剥ケ易シ

△多キハ十許少キハ三許ナリ

表乾キテ黒色トナル

Dolichos tuberosus ?

同前横断

外部ニ太キ鬚根数條アリ又端末ハ必ス一條アリ 大ナルハ前次品ヨリ大キシ 小ナルハ児拳ノ如シ

水気多シ

内部白色

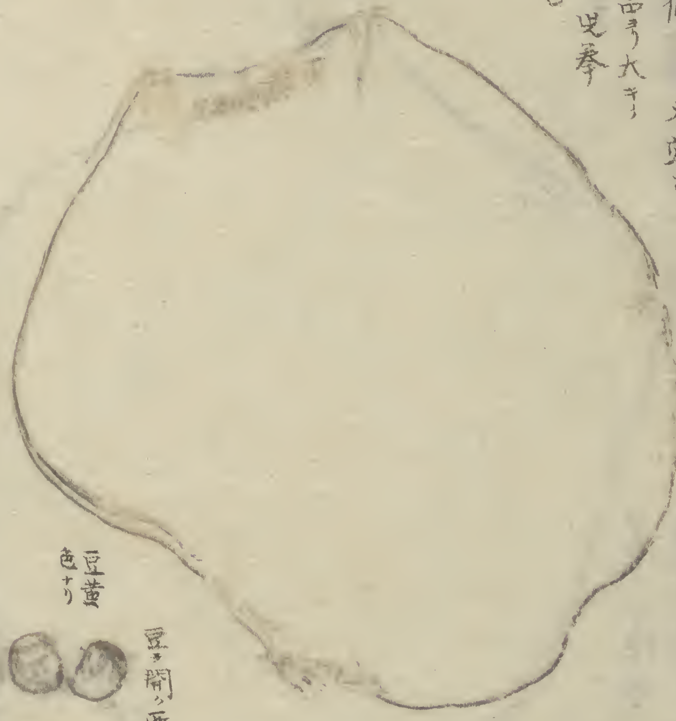
之ヲ截ハ大根ノ如シ生食スルニ味甘クカリくトシテ脆軟ナリ

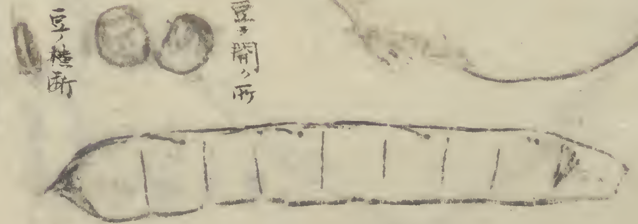
菊芋又馬芋ヲ生食スルニ似テ

味ハ番薯ノ如ク美味ナリ

明治十六年三月 小笠原島 直井直澄ヨリ贈ル所 三月十七日試ム

田中芳男記



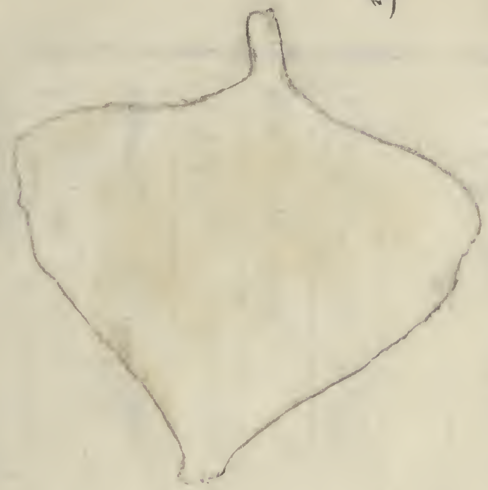


山芋

在横浜清商之所売 十六年四月五日 伊藤篤太郎恵ム

外面黄褐色 内部黄白色 今既腐敗ヲ催シ乾枯スレトモ 味甘美ナリ 但シ臭気アリ

煮食スルニ柔ニナラス カリくスルナリ 然ルトキハ生食又醋漬等ヲ佳トスルモノカ



此モノ十年許前ノ横浜ヨリ得タルコアリシ 久シ 今年ニ 小笠原島ヒフカミバ（梨芋）ニ同シ

田芳記

文久三年亥五月廿三日 堀建三郎納

無人島産 石介 草木類

總数五十

内 草木

内 三十 石介

バラナツト葉 ソメナ テリハノキ

ボナヽ 実 芭蕉

ヤブニクケイノミ 一茎ニ一蔕 五実ヲ付ブ 大サ大豆ノ如シ 房州方言ニオダヽ

[illegible] ヱラニ 葉

イワキ 女貞ノ実ノミ

[illegible]ノミ

小葉 テリハノキ ゴムボユツタノミ 白乳ヲ出ス無味

ミムラサキ 実ノミ 紫珠ニ

東京大学総合図書館

アカメガシハノめ芋実 ハスノハギリ

椰樹葉 ノバセヲ 幹頭ヲ切リ烹食スベシ 味筍ノ如シ

杜松ノ実 緑杉 ビヤクシント島ニ称スル也 悪シリ

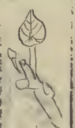
枸櫞ノ実 ニマキンカン 肉無味 皮美也 長クシテ丸クナラズ 一種丸キ者アリ ニマ敷カント云 蜜柑ノ味ニ似テ味絶ナリ

カヤニ似タル実 小葉テリハノキノ実也

白毛茸アル枝

杜松ノ材 緑杉ノ材也

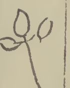
タバコノめ芋葉樹 ハマボウノキ 何 ノリルこ 葉紅葉ス 花黄ナリ 又ハ花ノ后ハ実ヲ含フ



コノサキノめ芋葉 臭気アリ

蕃書調所

モダマノ実

羅望子 島ニアリ 葉ノ如キ 蔓ヲ経テ 凋マズ 葉ハ  一茎ニ二葉ヲ附ク

圓実三個 リスノカガリ ジユズノニ ノ実 磨スレバ甚光沢アリ美也

紫竹ガイ 一

イモ介 アンボイナト称スルモノ 一

マクラガイ 一

ボタンイシ 小ナルモノ 石芝 五個

アマガイ フナガイ 五個

同一種 黄色ノモノ 五個

東京大学総合図書館

マイノソデ　一
クロニし　一
タイモガイ　一
マクラガイ　小　四ツ
カゴボラ　小々　一
黄蠟色ノ[redacted]　二
八文　メカラ　小キモノ　一
イモガイ　ワトイモ　一
同一種　背ニボツ〱んモノ　一
茘枝ガイ　一

蕃書調所

しリキリニナ　一
赤色　クダガイ　ローデペイプコラーん　一　ベニクダガイ
俗称　珊瑚ノ根ト云モノ　一
瑪瑙　下品ノモノ　一
白メノウ　三　ウスカハメノウ

東京大学総合図書館

(甲)(乙) ヨナクニコバ

樹ノ長サ十五尺 バ細クビレコム 故ニ幹ハ太クナリテ 剥形ニナシ 幹高シ

(甲)ハ幹太ク短ク アルハ幹高キノ 如クナシ

再考 甲乙ノ名 ……

蒲葵ノ品類

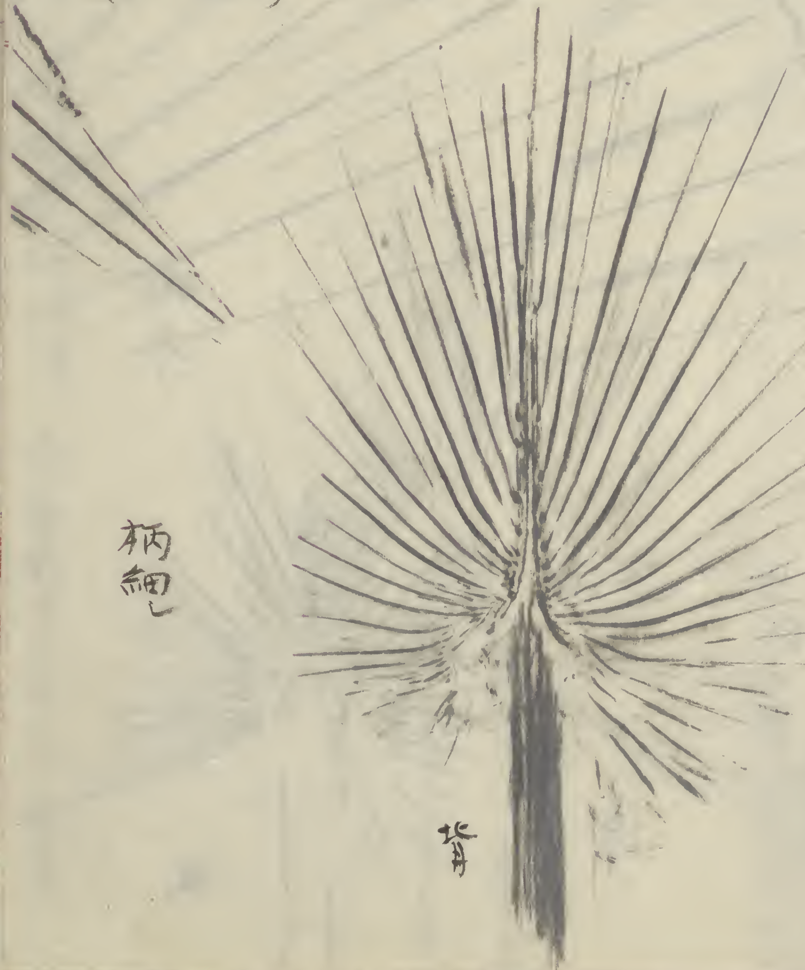
（「タカコバ」「ゲコバ」ノ名ハ甚タ面白カラン 田代氏 佐田岬ニ生ズ）

蒲葵ハ土佐 日向 大隅 琉球 小笠原島等ニ産スル所ノ
キ甚相似タリ 葉ノ之レ見ルモ其品ヲ研究スルナリシ然ルニ嶋山氏ノ
近ク聞クニ自ラ所持スル 小笠原島ノ品ヲ見ルニ 二品アリ
嶋山曰 甲乙 其ノ与那国ノ品ニ同シ 是レハ与那国ニテハ
栽培ニテ葉ノ焼ク勢ヒ切レハ幾何成長スルト定メ切タリ
日ク大陽ニ曬シ夫ノ両日ハ稍ハ操ニ帛ノ昼ハ大陽ニ曬シ夫
ヲ夜ハ屋夜曬シ夜露ニ逢ワシムレバ黄白色トナル之ヲ以テ
円形ノ団扇ヲ作リ 他島ノ品ヲ(甲)テ円形ノ者ヲ作ルヲ常
トス 甲ハ葉大ニシテ互ニ接着スル所多ケレド 荷軟ニハ

ソトスヘシ 乙ハ 与那国ニハ
トシテ ……

小笠原島 蒲葵（乙） 葉軟ニシテ手潤ナリ

小笠原島ニ甲乙ノ二種
アリ沖縄諸島ト弁スル
但乙ノ方用途多シ
トナリ甲ハ雨中ニハ帯
用ニ不適ノ所アリト
沖縄ニ於テ無苑圃ノ
手ハ堅硬乙ノ方ナリトテ
甲ハ扶桑ヲ作ル者ナラ
乙ヲ作ル者アリトニテ他
島ニテハ甲ノ方ヲ多ク用
フトテハ乙ハ無用ニハ
トナヒ少ナトナリ

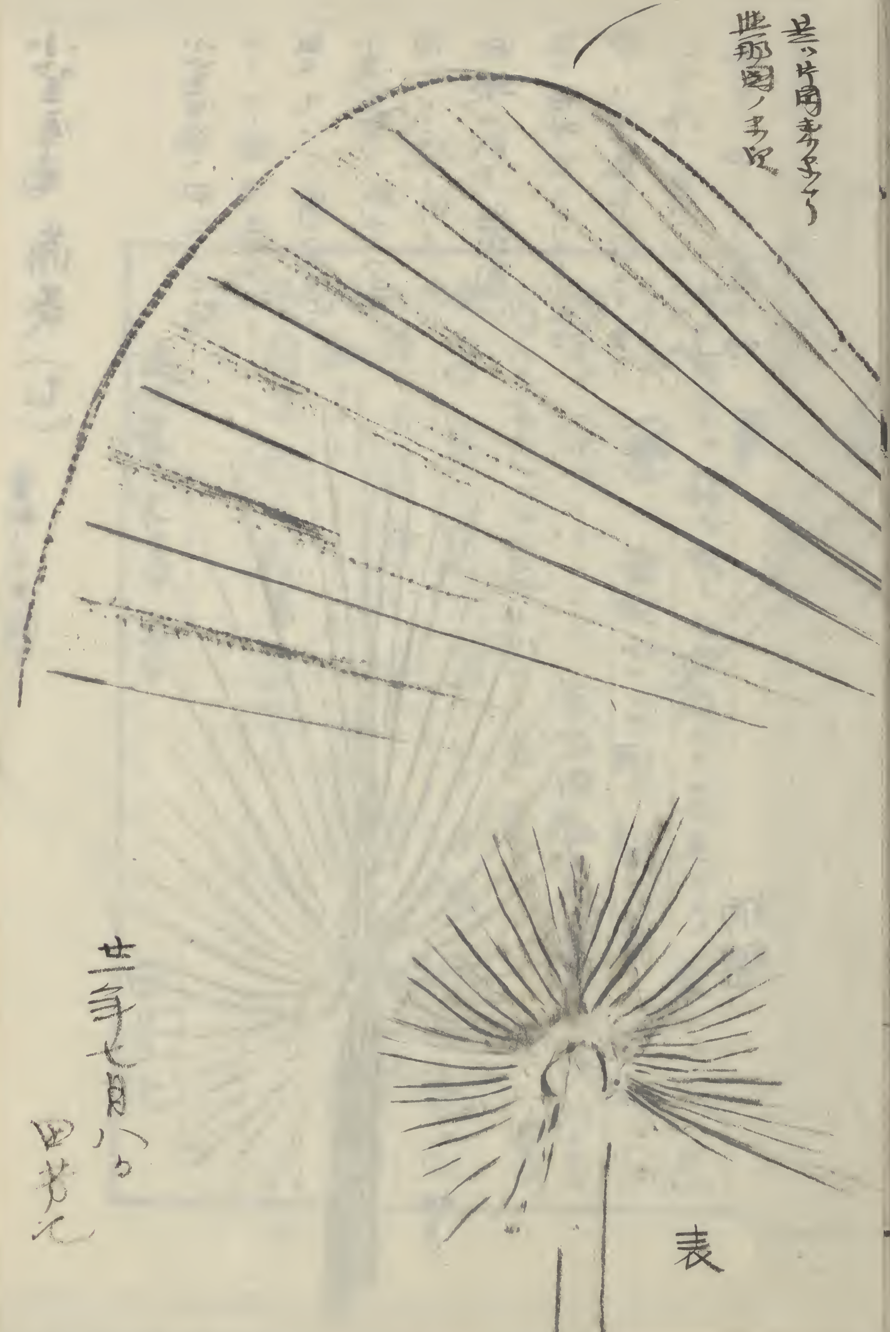


大ナルモノハ扇トシ故ニ小田扇トナス其ノ長キモノ簑トシテ人ノ長
サアリ（甲）ハ葉軟カナラス剛シ裂方多シ水桶トナスニ
大ナルヲ以テ常ニナラス 羊ハ田扇トス其方ノ節強シ（八丈島ニテ）
用ユルモノ婦女ノ扇ヲ用ヒ男ハ実セシ
嘉山ヒ島ノビロウハ別ニシテ沖縄ノビロウハ椰子ニ近
キ様ニシテ然ラバ（乙）カ然レバ沖縄ノビロウハ杜
弦勤ナリトノ一言ニテ未ダ分明ナラス
清国来扇ハ蒲葵ノ（甲）ノ方ナリ

廿一年七月三日

田芳記

是ハ片面ヲ写ス
與那国ノ扇也



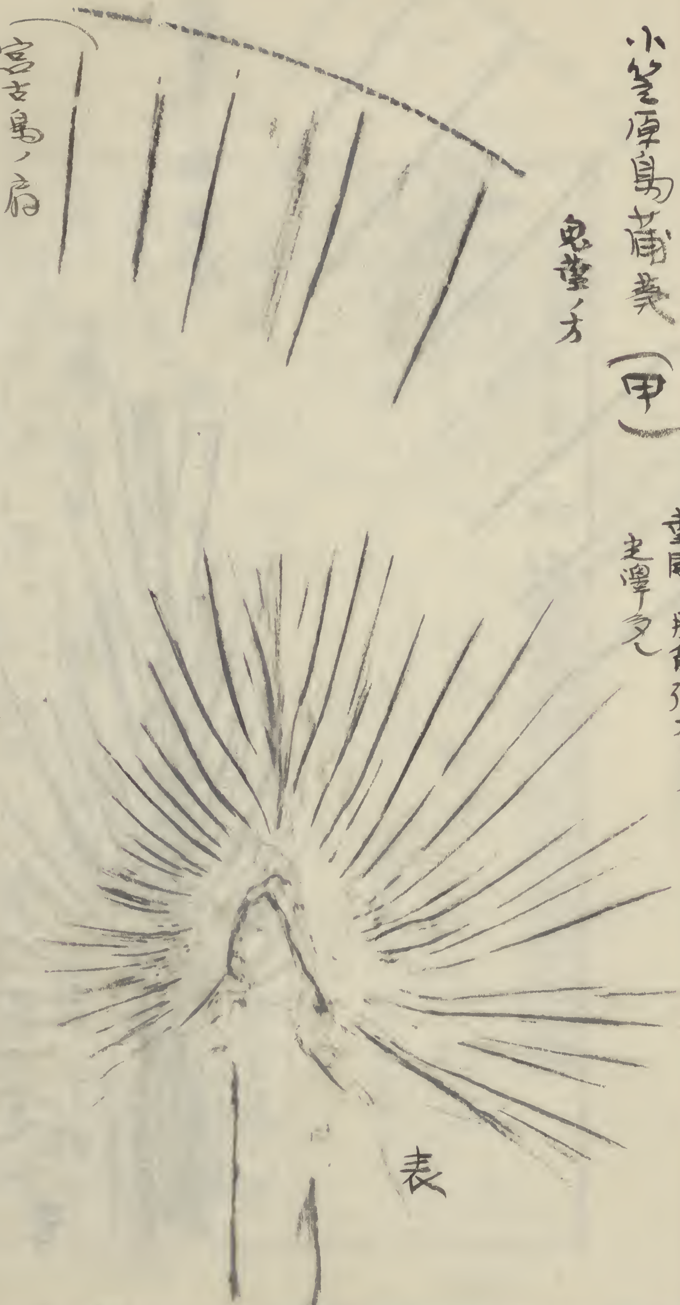
廿一年七月八日
田代写

小笠原島蒲葵（甲）

鬼葉ノ方

葉脚ノ肋筋殊ニ大ナリ
其澤多し

宮古島ノ扇



小笠原島之出者ハ多カラズ又幹短細ナル者ニテ 運テ葉肉ニ厚ミ乏シ 柄長大

小笠原島 咖啡 要語

咖啡樹

始 小笠原島ニ移

植シタルハ明治十一年一月内務権大書記官田中芳男ノ建

議ニ出テ冊ケ一番属武田昌次ヲ印度瓜哇ニ派遣シ

帰ル時該島ニ移植セシメ且勧農局出張所ヲ置キテ之カ培育

ヲ擔當セシメタリ然ルニ他ノ植物ノ内廣ク之ヲ若キテ紙撮リ

咖啡樹ト彈力護謨樹ハ彼ノ風土ニ適シ将来一産物ト

成ルヘキ景况アリ其始メ瓜哇ヨリ苗ヲ移セシモノハ

田畑換山ノ陰翳ノ地ニ植ユレハ生長甚タ宜シカリシモ又

植苗ノ爲

北海道勧農局試験地ニ苗床ヲ設ケ去ル十二年ニ播種シ十三年ノ春三百本ヲ胴捷山ニ移植セシガ僅ニ地味ニ応シ翌十四年ヨリ花ヲ開キ少許ノ結果アリ十五年ニ至リテハ結果頗ル多ク其秋収穫セシ皮去リノ実ハ三貫目餘入リノ箱四個ヲ東京府当地官吏等ヘ本庁ニ送致セリト云フ

現今栽植セシ総数ハ凡ソ三万本ニシテ既ニ花ヲ開キ植シ上ハ凡五尺ノ丈ソ千本アリテ他ハ結果スヲ期スト云フ然レ共栽培ヲ二三年ノミニテ既ニ結果ヲ得ルハ頗ル土地気候ニ適応セシ者ト見ヘタリ

明治十三年十月右栽植場ヲ[illegible]旧勧業局ヨリ東京府ヘ引継ケリ其節栽植ノ総数ハ左ノ如シ

咖啡樹栽植ノ

明治十三年 其他栽植調査概算

季常種咖啡		
四萬九千百四十		
三百五十本		
二百三十本		損
二千五百本	挿芽ニ仕立タル分	昨十五年中無代價ニテ人民ヘ拂下
三千五百五十本	苗床ニアル分	仝
計現存四萬本	拂下六千五十本	枯損九千七百廿九本
「リベリアン」種咖啡	季常種ニ比スレハ葉潤大ニテ滑澤アリ	
二百八十本	字棟原ヘ栽植	十六年調査悉皆枯損
千本	仝 苗場	仝

北蔵作為農局試験地ニ苗床ヲ設ケ去ル十三年ニ播種
シ十三年ノ春ニ至リ其苗ヲ御掛山ニ移植セシカ側ヲ 地味ニ
応ニ ……十四年……
テハ結果既ニ……
入リノ箱四個……
現今栽植スル……
増ツ上ルモノ凡ソ……
ヲ期スルヲ得……
土地気候ニ……
明治廿三年十……
東京府ヘ引……

小笠島産
茄菲
右ハ昨十四年同島
ニて初て結実へし〔?〕
る者を武田昌次か製
して「サツカリユー」山を取
りたる者あり

農商務省

咖啡樹栽植ノ總数

明治十七年十一月舊勧農局ヨリ東京府ヘ引續ノ節

調査概算

季常種咖啡樹

四萬九千百四十九本	字棚挽山栽植	十六年調査	活存四萬本 枯損九千百四十九本
三百五十本	仝 棟原	仝	悉皆枯損
二百三十本	仝 現資	仝	仝
二千五百本	播芽ニ仕立タル分		昨十五年中無代價ニテ人民ヘ拂下
三千五百五十本	苗床ニアル分		仝

計現存四萬本 拂下六千五十本 枯損九千七百廿九本

「リベリアン」種咖啡ハ季常種ニ比スレハ葉潤大ニテ滑澤アリ

二百八十本	字棟原ヘ栽植	十六年調査悉皆枯損
千本	仝 苗場	仝

農商務省

東京大学総合図書館

二千二百七十八本　苗床ニアル分　十五年中無代價ニテ人民ヘ拂下

八百五十本　十六年調査　活存　五本　枯損　八百四十五本

計現存五本　拂下二千二百七十八本　枯損二千百二十五本

将来咖啡栽培地トナスベキ見込ノ地面坪數

四萬三千坪　棚挽山　已ニ栽植ス　二萬坪　時雨瀧奥　以下未タ栽植セス

三萬坪　辰巳浦道　三千六百坪　現嶺

九萬坪　南崎　四丁歩　北鉄澤平地　昨十五年十二月調査ノ上市拂ニ相成ル見込ニテ今般上申ス

咖啡ノ該島ニ適應セルハ實ニ望外ニ出テ遂ニ一産物トナルベキヲ以テ人民中一時ハ競テ之カ栽植ヲ謀ルモノアリシヲ以テ東京府出張所ニテ無代價ヲ以テ苗ヲ拂下ケ已ニ宮内太平ナルモノ其苗二千本許ヲ扇島ニ移シテ栽植セシカ断鹿ノ為メニ喰害セラレタリ而シテ近頃ハ甘蔗ノ栽培宜シキヲ見テ却テ咖啡培養ヲ迂遠視スルモノ多ク已ニ御拂下ノ苗ヲ苗地ヨリ栽植地ニ移スコヲモナサヽル景況ナリ今ノ景況ニテ之ヲ人民ニ委セハ必ス咖啡栽植ノ地ハ甘蔗ノ栽植地ト變スベシ而シテ将來望ヲ属スル斯ル適應ノ物産ヲシテ一朝地ヲ拂フニ至ラシムルコハ遠キニアラサルカ果シテ然ラハ曩ニ勸農局着手ノ業モ全ク無効ニ属スベシ茲ニ於テ東京府ニテ嘗テ悉皆咖啡ノ栽植ヲ人民ニ委ストノ議起リタルモ今般全ク廃議トナリ棚挽山栽植ノ三萬本ハ全ク官ニテ保護培養シ充分将來ノ結果如何ヲ究ムルコニ決議セリト咖啡ハ世界一般飲料トシテ需要ノ廣キモノニシテ我国近来洋食ノ開クルニ從ヒ其需要モ亦次第ニ多

夕大ヒニ其輸入ノ数ヲ増加セリ後来該島ノ咖啡年々大ヒニ繁殖シ結果ヲ得テ内地ニ搬入スルニ至テハ假令之ヲ外国ニ輸出スルニ至ラストモ以テ外船ノ輸入ヲ防止スルニ足ルベシ

今左ニ咖啡輸入ノ額ヲ示ス

明治十四年中咖啡輸入ノ額　税関ノ調査ニ係ル

壱万四千零十五弗二拾四仙

此内　同年中精養軒ニテ買入高

六百六十四斤　マニラ ジャワ 産　五千百斤　代百六十四円

同十五年買入高

五百五十四斤　仝　五千百五十斤　仝

咖啡樹ハ原来亜弗利加洲ノ一部ニ土産ス（常ニ録スル者ナリシガ）其后亜剌伯ニ移シテ大ニ繁殖シ此地ノ一産物トナレリ而シテ目今ハ南亜米利加及印度地方ニ於テ多ク栽植シ其果仁ヲ以テ飲料ト致ス　コヒー　ト名ク書記シテ咖啡又可喜トモ云フ

々大ヒニ其輸入ノ数ヲ増加セリ後来該島ノ咖啡年々大ヒニ繁殖シ結果ヲ得テ内地ニ搬出スルニ至ラハ假令之ヲ外国ニ輸出スルニ至ラスト雖以テ外船ノ輸入ヲ防止スルニ足ルベシ

今左ニ咖啡輸入ノ額ヲ示ス

明治十四年中咖啡輸入ノ額　税関ノ調査ニ依ル

壱万四千零十五斤二拾四仙

外ニ同十四年中青[illegible]ノ年ニ於テ[illegible]

右ハ明治十六年春本局掛准奏任池田謙蔵外一名ヲ該島ヘ派遣シ調査セシメタル景況報告書中ノ要ニシテ西ニテ明治十六年ハ其得ル所ヲ記ス次第ニ成長シテ結果多キニ至ルノ景況アリ其可喜ハ本年三月下旬在下ニテ試製スル所ニシテ香味ノ佳良ナル遂ニ普通舶来品ノ上ニ出テタリ

明治十七年四月

農務省

別冊洋書壱括本局ヘ到達之処返却方依頼有之候也

十二年十一月

勧農局　庶務掛

田中芳男殿

東京大学総合図書館

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小笠原島産
野椰樹材
十三年四月[illegible]
[illegible]

小笠原島之產
看スル子ノ竹紋
仮ニ安南竹
ト名ク
（武井）

東京大学総合図書館

東京大学総合図書館